



# 第2次 福津市観光基本計画

令和2年3月

福津市

# 目 次

第1章 計画策定の趣旨 .....	1
1. 目的 .....	1
2. 位置づけ .....	1
3. 計画期間 .....	2
第2章 福津観光振興の成果と課題 .....	3
1. 成果 .....	3
2. 課題 .....	5
2-1 第1次福津市観光基本計画における課題 .....	5
2-2 基礎調査結果による課題 .....	6
第3章 福津観光振興の視点と目標像 .....	8
1. 視点 .....	8
2. 目標像 .....	9
第4章 福津観光振興の基本方針、基本施策、目標数値 .....	10
1. 基本方針 .....	10
2. 基本施策 .....	12
2-1 施策体系 .....	12
2-2 基本施策の概要と主な取り組み・事業 .....	14
3. 目標数値 .....	25
第5章 福津観光振興の推進体制等 .....	26
1. 推進体制 .....	26
2. 進行管理 .....	28
参考資料 .....	29
1. 国内の観光動向 .....	29
2. 福津市及び隣接する地域の観光動向 .....	35
3. 福津市の観光に係る基礎調査 .....	41
4. 計画策定に係る経過 .....	50
5. 用語解説 .....	52

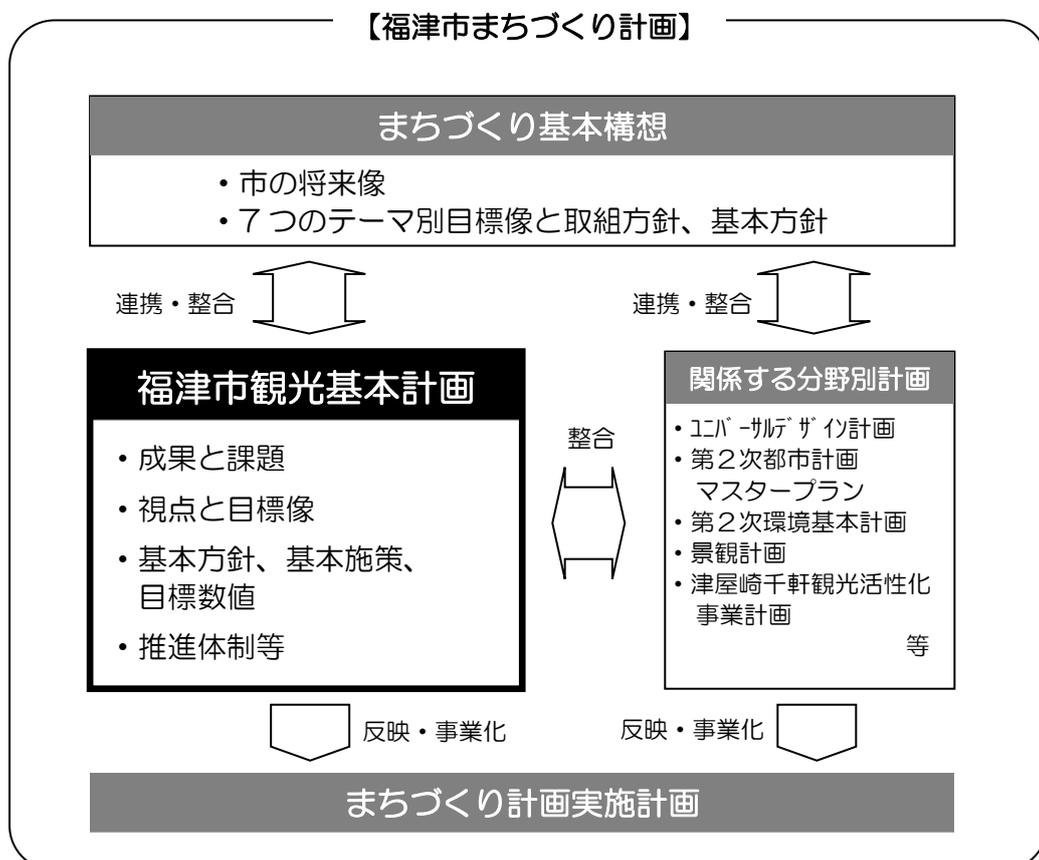
# 第1章 計画策定の趣旨

## 1. 目的

第2次福津市観光基本計画は、第1次福津市観光基本計画（平成22（2010）年度～平成31（2019）年度）の考え方を引き継ぎつつ、変化し続ける社会情勢に対応するため、福津市における観光分野の総合的・計画的な指針、及び市民・事業者・団体・行政が福津市の観光振興に取り組む際の基本的な方向を示して観光客の誘致を促進するとともに、市内の多彩な観光資源の高付加価値化や連携を図って回遊性を高め、観光事業を充実させて消費、雇用、創業、社会基盤の整備等を生み出し、地域経済の活性化と市民幸福度の向上を図ることを目指し策定します。

## 2. 位置づけ

本計画は、福津市の計画全体を表す「福津市まちづくり計画」における分野別計画であり、観光分野における目標像や基本となる方針・施策を示すものです。計画策定にあたっては、上位計画である福津市まちづくり基本構想に定める市の将来像、テーマ別目標像と取組方針・基本方針、まちづくり計画の基本的な考え方<sup>(※1)</sup>に沿ったものとするとともに、関連する分野別計画である第2次福津市都市計画マスタープラン、第2次福津市環境基本計画、福津市景観計画等との整合を図っています。



### 3. 計画期間

本計画の計画期間は、令和2（2020）年度から令和11（2029）年度までの10年間とします。ただし、計画の進捗状況の確認及び検証のため、期間中2回程度（おおむね3年に1回）の調査を実施するほか、社会情勢や国・県の動向を見ながら随時変更することとします。

#### ●まちづくり計画の基本的な考え方（※1）

##### 1. 「持続可能なまちづくり」の視点で、バランスよく推進します

目指すべき市の将来像からの投影でまちづくりを見据え、持続可能な発展に必要な社会的包摂・環境保全・経済成長の三側面を統合的に向上させていきます。

社 会：地域を担う人財育成

環 境：共働による環境の保全・創造

経 済：地域経済の基盤の確立

上記の考え方は、国連が呼びかけ、全世界で取り組むことを決めた「持続可能な開発目標（SDGs（エスディーゼーズ）」と同じ方向性にあると考えています。そこでSDGsの目標年である2030年に合わせ、本市が2030年に実現したい未来のイメージを描き、そこを起点に現在を振り返って今何をすべきかを考える方法で、テーマ別の取組方針・基本方針を検討しました。

##### 2. 多様な関係機関との戦略的な連携を推進し、発信力を拡充します

福岡都市圏の動向を見据え、都市圏自治体間の広域連携で効率的・効果的な取り組みを進めるとともに、共通課題を持つ他の自治体をはじめ、国、県、民間企業、各種団体、教育研究機関等と積極的に連携することで、戦略的な課題解決に臨みます。

また、対外的な発信力を高め、域外からの投資や人財を呼び込む等の成果につなげます。

##### 3. 創造的な行政経営による変革を推進します

自治体経営という視点を忘れず、これまで取り組んできた行財政改革をさらに一歩前へ進めて、効率的な公共施設の管理や、未来への投資に対する選択と集中を図ります。財政の適正化・健全化はもちろんですが、柔軟な発想と行動で財源や政策手法の多様化にも取り組みます。

また、部経営の推進と職員の創造性や政策立案力の向上を促進することで、自律的なマネジメントによる組織運営を図るとともに、チーム福津として、部課を横断した情報共有やプロジェクトにも積極的に取り組みます。

## 第2章 福津観光振興の成果と課題

### 1. 成果

市では、第1次福津市観光基本計画・基本方針1「推進体制づくり」に基づき平成22年、福津市観光産業活性化協議会を福津市・福津市商工会・福津市観光協会・市民代表・学識経験者で組織、およそ2ヶ月1回（プロジェクトごとの会議は別途開催）協議会を開催し、福津市の観光及び産業の発展のための事業企画・実施や予算決算等について議論を重ねました。

基本方針2「もてなし力の開発」では、「ふくつの鯛茶づけフェア」をはじめとする11事業を展開し、観光入込客数・市内消費額の増に努めました。特に、大手民間会社との共同プロジェクト「九州食の収穫祭 in 福津」では、平成27年度に来場者数55,000人、3億3千4百万円の経済効果を生み出しました。

基本方針3「発信力の向上」では、事業に伴う広報・広告を各種広報媒体（ちらし・ポスター・広報ふくつ・公式ホームページ等）やマスコミ等（新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・フリーペーパー・SNS広告等）への情報提供を積極的に行うとともに、独自事業として観光PR動画「福岡県福津市チャンネル・フクツノオトコ」を作成し動画サイトで公開し、イベント等での活用を図り、福津市そのものの知名度向上や、魅力ある観光資源の周知に努めました。現在、観光入込客数は570万人を超えています。

■福津市観光産業活性化協議会の年度別実績、メディア掲載件数及び観光入込客数の推移

年度	会議開催	実施事業	事業効果	メディア掲載件数	観光入込客数(年)
平成 22年度	9	プロジェクト協議	-	-	472万人
		鯛茶づけフェア準備	-	-	
平成 23年度	9 (4)	鯛茶づけフェア	4,729食、5,872,150円	16	487万人
		ふくつの海スイーツ準備	-		
平成 24年度	4 (9)	鯛茶づけフェア	5,928食、6,836,990円	11	498万人
		ふくつの海スイーツ	16,496個、2,818,385円	3	
平成 25年度	6	鯛茶づけフェア	6,810食、7,676,065円	14	492万人
		官兵衛パンフレット	-	-	
		福津へ行こうリーフレット	-	-	
平成 26年度	6	鯛茶づけフェア	10,819食、12,721,910円	28	491万人
平成 27年度	6 (13)	鯛茶づけフェア	10,197食、12,458,325円	16	501万人
		食の街道(シネフェス)	150人、177,800円	-	
		九州食の収穫祭 in 福津	55,000人、334百万円(経済効果)	24	
平成 28年度	9	鯛茶づけフェア	8,516食、10,983,390円	18	562万人
		食の街道(唄人羽ライブ)	213人、453,450円	-	
		九州食の収穫祭 in 福津	32,000人、143百万円(経済効果)	19	
		門前町サミット(視察)	-	-	
		秋フェア(検討)	-	-	
平成 29年度	5 (7)	鯛茶づけフェア	11,260食、13,766,930円	16	561万人
		食の街道(サーフボード)	462人	※FM福岡	
		九州食の収穫祭 in 福津	25,000人、128百万円(経済効果)	16	
		門前町サミット	13自治体、95人	2	
		お土産開発・普及 (Bonカガカ祭)	900人、約250,000円	-	
		秋フェア (津屋崎千軒かき巡り)	500食、573,560円	13	
		光の道ウイーク (FM公開生放送)	800人	※FM福岡	
平成 30年度	6	鯛茶づけフェア	8,818食、11,668,660円	16	573万人
		福津ロマンティックビーチ(福津バル)	576セット、1,209,600円	-	
		秋フェア (津屋崎千軒かき巡り)	653食、712,094円	9	
		光の道ウイーク(竜王戦)	大盤解説会235人	※読売新聞	
		観光PR動画	再生9万回以上	※YouTube	

※「会議開催」列における( )書きは、プロジェクト部会等の開催実績。

## 2. 課題

### 2-1 第1次福津市観光基本計画における課題

第1次福津市観光基本計画は、3の基本方針、15の施策、21のプロジェクトで構成しています。それぞれのプロジェクトには目的や実施方法、取り組み開始時期、実施主体と併せ“具体的メニュー”を複数掲げていますが、このうち78のメニューにおける実施状況について検証を行ったところ、実施済み21%、一部実施済み51%、未実施28%という結果となりました。

実施済みとした主な項目としては、福津市観光産業活性化協議会におけるプロジェクトの具体的な実施やプロモーション動画の作成等が挙げられます。また、一部実施となった主な項目としては、特産品の開発や体験メニュー作り等が挙げられますが、これは協議会が主体となって実施したのではなく、間接的あるいは他団体（ふくつ観光協会や福津市商工会、福津暮らしの旅運営協議会等）が主体的に実施・実現したため、一部実施済みとしたものです。

一方、未実施となった主な項目として、もてなし力向上セミナーの開催がありますが、これは民間ベースでのセミナーや研修が充実していることや、観光ボランティアガイド会が発足し、郷育カレッジ認定講座でもある「ボランティアガイド養成講座」を毎年開催していることもその一因です。

第1次計画では、計画の推進主体である福津市観光産業活性化協議会が、すべて「内容の検討」もしくは「呼びかけ」を行うことによりプロジェクトを推進することとしています。しかしながら、協議会が実施する事業は、（一社）ふくつ観光協会をはじめとする観光・まちづくり推進団体が実施する事業との重複を避ける必要があり、どうしても限られた範囲にとどまったことや、協議会の発案に限らず実施されたプロジェクト、事業実施の受け皿となる事業者・団体・人材不足により実施できなかったプロジェクトもあり、情報共有・実施不足や事業同士の相乗効果が見込みにくい等の状況となっています。

こうした実態を踏まえ、今後は、観光振興の核となる団体が、これまで以上に観光振興に関係する事業者・団体等を巻き込み、良い関係を築きつつ連携調整を図った上で、観光振興の担い手を逐次確保・育成し、主体的・戦略的・効率的・効果的に推進する必要があります。

## 2-2 基礎調査結果による課題

第2次福津市観光基本計画策定に先立ち、福津市の観光の現状把握と課題整理、及び基本方針や行動計画の決定に資することを目的とした、福津市の観光に関する基礎調査を実施しました（平成30年4月～12月）。この結果をもとに、福津観光の現状における課題を以下のとおりまとめました。

### ① 宮地嶽神社を中心に観光地を周遊できるような対策が必要

観光地点パラメータ調査では、多くの回答者が宮地嶽神社に訪問していました。また、市内のみの訪問のうち、1ヶ所のみ訪問が多く見られ、2ヶ所以上訪問している場合は、宮地嶽神社と宗像市を一緒に訪問する傾向が見られました。一方で、短時間の滞在が多く、消費額が少ないことから、市内の周遊があまりできていないと思われます。事業者や行政も宮地嶽神社や光の道を強みと考えており、宮地嶽神社は重要な観光資源です。そのため、宮地嶽神社を中心として福津市の観光地を周遊できる対策が必要と考えます。

### ② 観光地の露出やPR、特産物等の宣伝が必要

来訪者のうちリピーター（4回以上）が多いことや県外からの来訪者が少ないことから、市内には魅力的な観光地があるものの、情報発信が出来ていないことが考えられます。また、「特産品が何か分からない」といった意見やお土産を購入していない来訪者が多いことから、特産品やお土産等の宣伝が不足しています。そのため、観光地の露出やPR、特産物等の宣伝が必要と考えます。

### ③ 目に入りやすく、分かりやすい案内や看板、商品の説明等が必要

来訪者からは、駐車場や観光地への案内が少ないことや分かりにくいといった意見がありました。また、歴史についての説明や観光地での案内、店舗での商品の看板等がないことから、魅力的な商品や観光資源があるが来訪者が気づいていないことが考えられます。来訪者の目に入り、分かりやすい案内や看板を設けることが必要と考えます。

### ④ バスの本数を増やす以外での交通アクセスの改善が必要

来訪者からの「交通アクセス」に対する意見が多く、バスの本数の増便や公共交通機関の充実が必要です。しかし、福間駅から宮地嶽神社への西鉄バスの利用者数の変化が見られないことや乗務員の確保が難しいことから、バスの本数を増やせない状況です。そのため、バスの本数を増やす以外での交通アクセスの改善や一定の集客量を確保できる観光地の整備や観光資源の発掘等の仕組みづくりが必要と考えます。

### ⑤ 宿泊施設の整備や施設の情報の発信が必要

日帰り客が多く、福津市に宿泊する来訪者は少ない状況です。その理由として、宿泊施設が少ないことや県外からの来訪者が少ないことがあげられます。来訪者の滞在時間を伸ばし、消費額を上げるために、宿泊施設を整備し情報を発信する必要があると考えます。

**⑥ 体験できる場や他地域と重複しないイベントの内容等の工夫が必要**

1月の入込客数が最も多く、来訪の目的も「神社の参拝」が多いことから、来訪者が初詣の時期の宮地嶽神社に集中していることが分かります。そのため、1月以外の時期の来訪者を増やしていくために、イベント等の開催が必要です。また、観光客が体験できる場や他地域とイベントの内容が重複しない等の工夫が必要と考えます。

**⑦ 外国語の案内標識やメニュー等の外国人観光客への対策が必要**

福岡県や九州への外国人観光客が増えている中、観光に関連する団体や事業者からは、アジアからの外国人観光客を見かけるようになったとの意見がありました。光の道のCMやその他の宣伝により、福津市に多くの外国人観光客が訪れる可能性があります。そのため、外国語の案内標識やメニュー等の外国人に対する対策が必要と考えます。

**⑧ 団体や事業者間の連携を強化し、受入れ態勢を整備することが必要**

イベントや体験等の取組を行っていく上で、団体や事業者からは「地元の協力者を見つけることが難しい」、「店舗との連携や工夫が必要」、「宮地嶽神社との連携不足」等の意見がありました。団体や事業者間の連携を強化し、受入れ態勢を整える必要があると考えます。

## 第3章 福津観光振興の視点と目標像

### 1. 視点

第1次福津市観光基本計画では、観光振興に向けた視点として「地域総体産業として取り組む」ことを掲げていました。この視点は、今後においても、福津市の観光振興に非常に重要と判断されることから、引き続き「観光振興＝地域総体産業」として取り組みます。

#### ○地域総体産業として取り組む（地域産業の活性化、波及効果）

観光振興へ取り組むことにより、宿泊、飲食、物販、交通等の地域の観光関連産業の活性化だけでなく、地域社会全体の産業への波及効果が期待されます。

具体的には、物産、飲食のための原材料を生産する農林水産業、これを加工流通するための製造業、運輸業、商品をデザイン開発する対事業所サービス業等は、観光関連産業の周辺に位置し、さらにこれらの事業所で働く人々のための生活サービスをはじめとした地域のサービス産業等への波及もあることから、観光振興は、地域総体産業として位置づけられます。

#### ●福津市まちづくり基本構想と観光振興の視点

福津市まちづくり基本構想では、観光は地域経済を支える産業の柱という役割だけでなく、本市が持つ自然資源・歴史資源・景観資源を生かし、地域の魅力をさらに引き上げる役割も期待されています。元来、「観光」には、光を求め悟り示すという意味があります。観光を通して、本市を訪れる人も地元の人も、地域の魅力に触れて学ぶ機会が増え、人的資源の魅力もさらに豊かになるでしょう。「新たな経済基盤としての観光」、「環境保全を支える観光」、「訪れる人と共に市民も学びあう観光」を通して、経済・環境・社会の循環を創出することに寄与します。

## 2. 目標像

### 福津の魅力を生かした持続可能な観光のまち

地域活性化のためには、市外の人々との観光以上移住未滿の「関係人口」をつくるこ  
とが重要だと言われています。観光を産業の柱のひとつとしてとらえ直し、福津の魅力  
を生かした持続可能な観光という新たな経済基盤をつくります。

#### ●福津市まちづくり基本構想に掲げる市の将来像とテーマ別目標像

福津市まちづくり基本構想では市の将来像を「人も自然も未来につながるまち、福津。」を掲げていま  
す。これには、人も、自然をはじめとする地域資源も、経済も、生き生きと持続的に循環するまちの姿  
を未来へと継承する意味が込められています。

また、まちづくり基本構想では、7つのテーマ別目標像が示され、これらは、社会：地域を担う人財  
育成、環境：共働による環境の保全・創造、経済：地域経済の基盤の確立という3つの分野で構成され  
ています。観光振興は、テーマ別目標像の7つ目に掲げられ、6つ目の地域産業とあわせて、地域経済  
の基盤の確立を担う分野です。



#### ●福津市まちづくり基本構想に掲げる観光振興の目標像と2030年のイメージ

○観光振興の目標像：「福津の魅力を生かした持続可能な観光のまち」

○2030年のイメージ：

持続可能な観光を推進し、美しい海岸・海を楽しむさまざまな活動や農家・漁家の人たちとの交流や、  
環境保全の活動への参加等、豊かな自然や歴史、文化を生かした体験型の観光で福津を訪れる人が増え  
ています。

また、持続可能な観光のもうひとつの柱として、企業や行政機関、教育機関向けの研修地として国内  
外に知られ、多様な人が学びに訪れ、福津ファンの増加につながっています。対話的な深い学びを求め  
て国内外から訪れる人を優しく受け入れるまちになっていて、市民は訪れる人たちとの交流を楽しんで  
います。外国語やさまざまなコミュニケーションの手段を使って、福津の魅力を伝える人財も増えつつ  
あります。

## 第4章 福津観光振興の基本方針、基本施策、目標数値

### 1. 基本方針

第3章で定めた福津観光振興の視点や目標像「福津の魅力を生かした持続可能な観光のまち」から、以下のとおり基本方針を定めます。

#### **基本方針1** 国内外の人が何度も訪れたい魅力をもつまちを磨く

(観光資源の魅力向上)

本市の財産である自然資源・歴史資源・景観資源等をしっかりと守りつつ生かして、国内外の人が何度も訪れたいまちをめざします。

そのために、異なる特性を持った観光資源をそれぞれのターゲット層に応じてその魅力を磨き、心に残る価値<sup>(※2)</sup>を提供します。

#### **基本方針2** 観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する

(受入環境の充実)

市内中心部に位置する宮地嶽神社エリア、海岸エリア、津屋崎千軒エリアの主要拠点の整備と、市内に点在する世界遺産の古墳群エリア、畦町エリア、自然公園やキャンプ場、直販施設への誘導を促進します。<sup>(※3)</sup>

市内の主要観光拠点の整備と拠点間の回遊性を高め、滞在時間を伸ばすことで、飲食・体験プログラム・お土産・宿泊のそれぞれにおける消費額を拡大します。

#### **基本方針3** ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化する

(効果的な情報発信)

「福津」のブランド・イメージを効果的に伝え、市内外の方々が福津に関心を持ち、愛着を感じてもらえるように、ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化します。

■福津観光振興の基本方針と対応する課題、指標

◎：直接的に対応 ○：間接的に対応

福津観光振興の課題		基本方針		
		1.魅力を磨く	2.拠点整備と消費額拡大	3.ブランディングプロモーション
①	宮地嶽神社を中心とした回遊性	◎	-	-
②	PR	-	-	◎
③	案内、看板、商品説明	-	◎	-
④	二次交通アクセス	-	◎	-
⑤	宿泊施設	-	◎	-
⑥	イベント開催時期の平準化	◎	-	-
⑦	インバウンド対応	◎	◎	-
⑧	事業者間連携	◎	○	○
成果目標指標		観光入込客数 満足度 リピーター率	観光消費額 延べ宿泊者数	-
進捗管理指標		-	宿泊室数 体験参加者数	SNSのインゲージメント数 メディア掲載数

●福津観光で提供する価値（※2）

- 住む人と訪れる人の関わりの中で響きあう豊かさ
- 自然を見るだけでなく、自然とのつき合い方が響きあう
- 町並みを見るだけでなく、町並みに対する想いが響きあう
- おいしいものを食べるだけでなく、食に対する意識が響きあう

●観光拠点エリア別の個性（※3）

- 暮らしに根づく祭事と花々が迎える宮地嶽神社エリア：お祭り、光の道
- 日本らしい暮らしを味わう津屋崎千軒エリア：歴史的な町並み、人の温もり
- リゾートライフを楽しむ海岸エリア：おしゃれ感、マリンスポーツ
- 古代の暮らしに思いをはせる古墳エリア：田園風景、アジアとのつながり

## 2. 基本施策

### 2-1 施策体系

第3章で定めた福津観光振興の視点や目標像、及び本章で定めた基本方針をより具体化するため、以下のとおり基本施策を定めます。

#### ■施策体系等一覧

基本方針	基本施策	実施区分	取組時期		
			■：実施 □：調査検討 ◻：並行（実施・調査検討）		
			前期 R2-R4	中期 R5-R7	後期 R8-R11
1 国内外の人が 何度も訪れたくなる魅力 を磨く	(1) 地場産食材を使った 福津らしい食の開発・普及	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(2) 福津の目玉となる 特産品の発掘・磨き上げ	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(3) 自然環境資源や歴史・文化資源の 魅力発掘・磨き上げ	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(4) 自然環境、歴史・文化、産業等の 資源を生かした体験、交流型観光の推進	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(5) 異分野との連携・組み合わせ等による 新たな観光資源の創出	新規	□◻■	■◻■	■◻■
2 観光拠点を整備し、 観光消費額を拡大する	(1) 観光案内の充実	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(2) 観光交流施設・地域の機能強化	継続 新規	■◻■ □◻■	■◻■	■◻■
	(3) 移動しやすい交通基盤の整備	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(4) 市内宿泊環境の向上と改善	新規	□◻■	■◻■	■◻■
	(5) 福津製品の消費拡大	新規	□◻■	■◻■	■◻■
	(6) 多言語対応等の促進	新規	□◻■	■◻■	■◻■
	(7) 観光人材の発掘と市民意識の向上	新規	□◻■	■◻■	■◻■
3 ブランドの構築や 管理、販売促進のた めの活動を強化する	(1) 各種媒体を通じた 広告・パブリシティの強化	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(2) 市内観光関係機関・団体との連携による 共同プロモーション	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(3) 市独自の観光情報発信の強化	継続	■◻■	■◻■	■◻■
	(4) 自治体等との連携による 情報発信及び誘客推進	継続	■◻■	■◻■	■◻■

※計画の進捗状況の確認及び検証のため、期間中2回程度（おおむね3年に1回）の調査を想定。

## ■取り組み主体の定義と役割

### ●市民

市民は、市外から訪れる観光客との接触の機会が最もある立場であるとともに、地元産品の購入や飲食等による市内経済の循環に最も貢献する立場です。また自らも市内の観光イベント等に賛同・参加したり、その魅力を自らの情報として発信・拡散したりする役割を担います。

### ●事業者（観光関係事業者）

飲食店や宿泊施設、交通事業者、旅行事業者等の観光に関係する事業者は、第一線で観光客と直接的に関わります。地元ならではの商品や食品、サービスの提供、おもてなし、観光案内等の役割を担います。

### ●関係団体（観光関係団体）

農業協同組合、漁業協同組合等の関係団体は、地域の農産物や水産物の高付加価値化や安定供給に資するとともに、6次化等生産者と事業者等とを結び付ける等の役割を担います。また、市民等の任意による観光関係団体は、事業者が実施しえない範囲において、地域資源を守り育てるとともに、国内外からの来訪者はもちろん市民に対しても、それらの魅力を発信、提供する役割を担います。

### ●商工会（福津市商工会）

福津市商工会は、商工会法(昭和35年5月20日法律第89号)に定める、地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資することを目的とした非営利の法人です。観光を産業として捉えるとともに、創業支援や経営発達支援、事業承継等の役割を担います。

### ●観光協会（一般社団法人ふくつ観光協会）

一般社団法人ふくつ観光協会は、市の観光客誘致宣伝を推進するとともに、観光客の受入体制の整備を行う等観光に関する事業の振興を図り、もって地域経済の発展と地域文化の向上に寄与することを目的とした法人です。市民や民間事業者・団体、商工会、市等と緊密な連携を図りながら、市の観光振興の中心となる役割を担い、効果的なプロモーション活動やイベント等を実施します。

### ●行政（福津市）

福津市は、福津市まちづくり基本構想やこれに基づく各種分野別計画を踏まえ、観光担当部署を中心に関係部署との連絡調整を図りつつ、観光政策の企画立案、観光資源の開発支援、自治体単独又は共同のプロモーション、受入環境の整備支援、財政的支援等、観光振興の側面的支援の役割を担います。

## 2-2 基本施策の概要と主な取り組み・事業

### 基本方針1 国内外の人が何度も訪れたいくなる魅力を磨く（観光資源の魅力向上）

#### (1) 地場産食材を使った福津らしい食の開発・普及

本市は、地域ブランド「福津の極み」にも認定されているカリフラワーやミニトマト、早生キャベツ、クリームスイカ、県産ブランド・博多あまおう（いちご）等の農産物、漁港で水揚げされるマダイ、ヤリイカ、サザエ、水産ブランド・津屋崎千軒かき等の水産物が特に豊富にあります。これら地場産食材を使った、福津らしいメニュー開発を地元飲食店等に引き続き呼びかけていきます。

また、鯛茶漬けに代表される昔ながらの郷土料理や福津らしさを感じられる食を生かしたフェアやイベント等を開催します。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○地場産食材を使ったメニュー開発促進	●	●	○	○	●	—
○福津らしい食を生かしたフェア・イベント等の開催	●	●	○	○	●	○

#### (2) 福津の目玉となる特産品の発掘・磨き上げ

本市には、国県や市独自の認定制度等により広く知られている特産品の他にも、新たな特産品となり得る米穀類や野菜類・魚介類・食肉類等の生鮮食品、トルコギキョウ等の花き類、たたきごぼう、おきゅうと、塩うに、干物等の加工食品、藍染め等の工芸品、パン・菓子類、酒類・飲料等があります。これらが持つ魅力を発掘し、独自性や他との優位性、ストーリー性を付加することにより、福津の目玉となる特産品として磨き上げていきます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○新たな特産品となり得る生鮮食品、加工食品、工芸品等の発掘	●	●	●	○	○	○
○現在ある生鮮食品、加工食品、工芸品、旅行商品、体験商品等のブランド化 ※独自性や優位性、ストーリー性を付加	●	●	●	○	○	—

### (3) 自然環境資源や歴史・文化資源の魅力発掘・磨き上げ

本市は、西側を海、東側を山に囲まれ、豊かな自然環境資源や歴史・文化資源に恵まれています。風景ブランド「福津三十六景」に位置づけられるもののうち、広く知られている世界文化遺産の新原・奴山古墳群や、津屋崎千軒、福間海岸、宮地嶽神社周辺等については、観光客にとってより魅力ある場所となるため「福津市景観計画」に基づく良好な景観の形成の誘導に努めるほか、これまで人の目に触れることの少なかった自然環境資源や歴史・文化資源の魅力を発掘していきます。

また、資源の魅力発掘や向上に連動し、自然観察やバードウォッチング、歴史探訪といったテーマ性やストーリー性を持たせ、資源同士をつなぐ観光ルートの開発や、資源そのものの強みを生かしたフェアやイベントの開催につなげていきます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○新たな資源の魅力発掘	●	○	○	○	○	○
○既存資源（世界遺産、津屋崎千軒、福間海岸、宮地嶽神社周辺等）の磨き上げ（良好な景観の形成等）	●	○	○	●	●	—
○テーマ性やストーリー性を持たせた観光ルート開発	●	●	○	○	○	—
○資源の強みを生かしたフェアやイベントの開催	●	●	○	●	●	○

#### (4) 自然環境、歴史・文化、産業等の資源を生かした体験、交流型観光の推進

本市の豊かな自然環境資源や歴史・文化資源を生かし、ウォーキング、サイクリング、ハイキング、トレッキング、マリンスポーツ、その他スポーツ・アクティビティ体験等を順次創出するとともに、魅力ある・記憶に残る体験へと磨き上げます。

また、津屋崎祇園山笠等の伝統芸能、津屋崎人形等の伝統工芸、農林漁業や商工業等の産業を生かし、つなげる体験・交流型観光を発掘していきます。

さらに、それらを網羅し本市の多様な生活文化を体験提供する着地型観光「福津暮らしの旅」については、これまでの考え方や方向性を踏襲しつつ、新たな体験プログラムの造成や顧客獲得、既存プログラムの磨き上げを図り、交流人口・関係人口の増加に努めます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○ウォーキング、サイクリング、ハイキング、トレッキング、マリンスポーツ、その他スポーツ・アクティビティ体験等の創出・磨き上げ	●	●	○	●	●	○
○文化交流（福津暮らしの旅）、伝統芸能（山笠等）、伝統工芸（津屋崎人形等）、産業（農林漁業、商工業等）、その他伝統・文化・産業等に係る体験交流の発掘・磨き上げ	●	●	○	●	●	○

### (5) 異分野との連携・組み合わせ等による新たな観光資源の創出

市内には、これまで観光資源として捉えてこなかった道路、橋、漁港、ダム、ため池等の公的インフラや、保存優先であった津屋崎古墳群等の文化財が多くあります。これらを新たな観光資源として見直すとともに、その魅力について深く掘り下げ、まとめていきます。

また、生涯学習・教育、保健福祉・健康、映画・アニメ・ゲーム等異業種・分野と観光との組み合わせをすすめ、旅行合宿や旅行研修等の学びの観光（ラーニングツーリズム）、健康になれる観光（ヘルスツーリズム）、映画・ドラマ等のロケ地観光といった新しく魅力ある観光資源として創出していきます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○公共施設・インフラ、文化財等公的資産の有効活用・連携による新しく魅力ある観光資源の創出	●	●	○	○	○	—
○生涯学習・教育、保健福祉・健康、映画・アニメ・ゲーム等異業種・分野との組み合わせによる新しく魅力ある観光資源の創出	●	●	○	○	○	—

**基本方針2 観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する（受入環境の充実）**

**（1）観光案内の充実**

本市を訪れる観光客は年々多様化・多国籍化しています。このことを踏まえ、本市の主要な交通結節点であるJR福岡駅内にある福津市行政・観光情報ステーション「ふっくる」を、多言語にも対応できる観光案内所として設置・位置づけ、日本人はもとより外国人にも優しい観光案内所を目指します。

また、パンフレットやちらし、ウェブサイトやSNS等、観光客が直に目にしたり、手に取ったりする観光案内ツールについては、内容の見直しや充実、多言語対応等を行い、いわゆる「旅マエ」「旅ナカ」に役に立つ構成内容としていきます。

「福津市観光ボランティアガイド会」をはじめとする市内観光ガイドについては、世界文化遺産の新原・奴山古墳群や津屋崎千軒での観光ガイド、多言語対応を含む各種ガイド活動、ガイドの養成・研修等に対し必要な支援を行います。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○福津市行政・観光情報ステーション「ふっくる」の多言語対応観光案内所としての設置・位置づけ	●	●	○	○	○	—
○観光案内ツール（紙媒体・電子媒体）の充実 ※多言語対応含む	●	●	○	○	○	—
○観光ガイド養成・活動支援 ※多言語対応含む	●	●	○	○	○	○

## (2) 観光交流施設・地域の機能強化

「第2次福津市都市計画マスタープラン」に定める観光交流スポット（宮地嶽神社、津屋崎千軒、新原・奴山古墳群、畦町宿、福間漁港、津屋崎漁港及び3つの直販所）と、観光交流ゾーン（津屋崎漁港から福間漁港へ至る海岸線と宮地嶽神社を結ぶ地域）のうち、既存公共施設については、改良や改築・増築等のタイミングで「福津市ユニバーサルデザイン計画」に基づき、誰もが利用しやすい施設整備や解説板等の多言語化を進めるとともに、駐車場や休憩所等の新設・増設にあたっては、事前調査等でニーズ把握を行い、必要性・妥当性を評価した上で実施することとします。

また、観光客の回遊性を高めるため、観光交流施設相互の連携を深めるための仕組み作り（他施設案内や同時期でのイベント開催等）を進めます。

### 【津屋崎地区の機能強化】

第2次福津市都市計画マスタープランで”地域拠点”に位置づけている津屋崎地区については、地域の歴史や伝統に育まれた食文化や伝統芸能・伝統工芸等を生かし、サザエめしやタコめし、蒸し雑煮といった津屋崎らしい食や、津屋崎人形、豊盛（日本酒）といった津屋崎ならではの特産品、塩田や山笠といった津屋崎の歴史・文化により多く触れることのできる環境作りを、まちおこしセンター（津屋崎千軒なごみ）や津屋崎千軒民俗館「藍の家」等の地区内公共施設を中心に進めます。

また、地区内に点在する空き家・空き店舗等の中古物件を、民間主導で飲食店や小売店、宿泊施設等へ転用し、ラーニングツーリズムや古民家ツーリズムにつなげるといった利活用に対し、市は必要な支援を行うほか、対策が急がれる物件については、十分な調査検討を踏まえ、市で取得して観光に資する施設等への転用を図ります。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○利用しやすい施設・地域（駐車場・休憩所等含む）の整備	●	○	○	○	○	—
○施設等の解説の多言語化	●	○	○	○	○	—
○施設間の相互連携による回遊の促進	●	●	○	●	●	—
○【津屋崎地区】歴史・伝統を背景とした津屋崎らしい食、特産品等の開発・提供促進	●	○	○	●	●	○
○【津屋崎地区】空き家・空き店舗等の転用・利活用に対する支援、及び解消のための対策強化	●	○	○	●	●	○

### (3) 移動しやすい交通基盤の整備

本市を訪れる観光客が円滑に観光地等を周遊できるよう、観光地に併せバス、タクシー、レンタカー、自転車といった二次交通の案内を行い利用の促進を図る等、利用者の利便性の向上に資する必要な支援を行います。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○二次交通（バス、タクシー、レンタカー、自転車）利用促進・支援	●	●	○	○	●	—

### (4) 市内宿泊環境の向上と改善

本市を訪れる観光客の多様な宿泊需要に対応するため、ホスピタリティの向上や訪日外国人旅行者の受け入れ、キャッシュレス決済導入等の利便性・生産性の向上等について既存宿泊施設に協力を促し、利用率の向上に努めます。

訪日外国人旅行者を中心に人気が高まっている民泊や、農山漁村での生活体験や交流を楽しむ農泊（農山漁村滞在型旅行）については、旅館業法や住宅宿泊事業法、農山漁村余暇法等関係法律の適正運用に努めます。

また企業誘致の一環として、ビジネスホテルやリゾートホテルといった大型宿泊施設の立地誘致を進めます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○既存宿泊施設の利用向上	●	○	○	○	●	—
○健全な民泊・農泊サービスの普及促進	●	○	○	●	●	○
○ホテル等施設の誘致	●	○	○	○	●	—

### (5) 福津産品の消費拡大

本市の豊かな自然環境や生活・文化から生まれたさまざまな特産品の販売や、福津そのものの魅力を紹介し、(一社)ふくつ観光協会が運営する店舗(手みやげや ふくつ本舗)については、産品が持つ価値の丁寧な解説や接客対応、多言語対応、キャッシュレス決済の活用等により、多くの顧客の獲得と販売実績の向上に努めます。

また、販売チャンネルの多角化を図るため、インターネットを活用した販売・販路拡大を促すほか、福津市ふるさと納税返礼品へのラインナップ、大規模小売店舗等と連携した福津産品の販売品目の拡大にも取り組みます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○地域資源を活用した商品等を取り扱う店舗での販売実績向上	●	●	○	○	○	○
○インターネットを活用した販売促進・販路拡大	●	●	○	○	○	—
○ふるさと納税返礼品への積極採用	●	●	●	○	●	—
○大規模小売店舗等との連携による販売品種の拡大	●	●	●	○	●	—

### (6) 多言語対応等の促進

本市を訪れる訪日外国人旅行者が安心・快適に買い物や食事といった観光周遊を楽しむことができる環境作りのため、市内の飲食店舗等に対し、多言語での商品掲示や解説、ムスリム対応(食事メニューや礼拝所等)といった受入環境整備のほか、利便性・生産性向上を兼ねたキャッシュレス決済の導入、無料 Wi-Fi 環境の整備を促進します。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○外国人観光客受入環境整備の促進	●	●	●	●	●	○
○キャッシュレス対応の促進	●	●	●	●	●	—
○Wi-Fi 環境整備の促進	●	●	●	●	●	—

### (7) 観光人材の発掘と市民意識の向上

市内定住者や、市外在住だが市の観光事業や観光活動に関わりたいと思っている人たちの潜在的な需要を掘り起こし、人材不足に悩む観光関係事業者や団体の支援に努めます。

また、市民が本市の魅力的な観光資源を理解し、関心を持ち、その魅力を自ら実感・発信できるよう、観光情報の積極的な提供に努め、福津観光に対する市民意識の向上を図ります。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○観光事業や観光活動に関わる人材の発掘・支援	●	●	○	○	●	○
○福津観光に対する市民意識の向上	●	●	○	○	○	○

**基本方針3 ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化する（効果的な情報発信）**

**(1) 各種媒体を通じた広告・パブリシティの強化**

本市の豊かな自然環境や歴史・文化環境、またそこから生まれた特産品や体験商品等を広くアピールするため、適切な時期に必要な情報を新聞・新聞折込広告、テレビ、ラジオ、フリーペーパー、ウェブサイト、SNS等の広告媒体を通じ積極的な情報提供・展開を行っていきます。ペイドパブリシティ等の有料広告については、情報を厳選した上で実施を検討するものとします。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○新聞（折込広告含）、テレビ、ラジオ、フリーペーパー、WEB、SNS等への積極的な情報提供・展開	●	●	●	○	○	○

**(2) 市内観光関係機関・団体との連携による共同プロモーション**

本市の魅力を直接手に取り、感じてもらう機会を増やすため、各地で開催されるイベントやフェア、商談会、展示会、博覧会等へ積極的に出店参画し、市内外、県内外、国内外を問わないアピールに努めます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○イベント、フェア、商談会、展示会、博覧会等への積極的な出店参画 ※市内外、県内外、国内外を問わず	●	●	●	○	○	—

### (3) 市独自の観光情報発信の強化

行政広報「広報ふくつ」や、JR福岡駅構内等に設置している情報案内板、福津市公式サイト、公式SNSチャンネル等、本市独自の広報媒体を積極的に活用し、市内外に福津観光の情報提供を行っていくとともに、VRやAR、ドローン等の新技術の活用も視野に入れた観光PRに努めます。また、市民に向けては、イベント案内等の情報に加え、本市の魅力的な観光資源を理解し、関心を持ち、その魅力を自ら実感・発信できる観光人材の育成に資する、観光教育の視点に立った情報発信も併せて行っていきます。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○行政広報、情報案内板、公式サイト、SNS等の積極的活用・強化（市内主要観光施設等へのチラシ・ポスター設置・掲示を含む） ※新技術（VR、AR、ドローン等）の活用も視野	●	○	○	○	○	○

### (4) 自治体等との連携による情報発信及び誘客推進

本市では現在、福岡県単位（福岡県、福岡県観光連盟）、福岡都市圏単位（福岡地区、福岡都市圏フィルムコミッション）、筑前玄海地域単位（芦屋町・岡垣町・宗像市・古賀市・福津市）、世界文化遺産単位（宗像市・福津市）での自治体間連携による各種協議や連携事業を実施していますが、今後もそれぞれの長所を生かした情報発信や誘客促進を継続実施するとともに、新たな広域の枠組みが発生した場合にも積極的に参画していきます。

また、観光振興や地方創生を主目的とした産・学・官の連携をすすめ、お互いの強みを生かした観光資源の魅力発掘や誘客促進、情報発信を行います。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○福岡県、福岡都市圏、筑前玄海地域、世界文化遺産、その他新たな広域連携にも参画し誘客推進	●	○	○	○	○	—
○産学官連携（産官連携、官学連携含）によるお互いの強みを生かした魅力発掘、誘客促進、情報発信	●	○	○	●	●	○

### 3. 目標数値

本章で定めた基本方針、基本施策、主な取り組みを踏まえ、以下のとおり目標数値を定めます。なお、訪日外国人の動向及び目標数値については、調査等によりその動向が判明次第、別途定めるものとします（観光入込客数、観光消費額、延べ宿泊数。日本人と外国人を分けて設定）。

項目	現状値 (基準年)	中間目標値 (令和4年)	中間目標値 (令和7年)	最終目標値 (令和11年)
観光入込客数	5,733千人 (平成30年)	6,024千人	6,315千人	6,703千人
観光消費額	14,378百万円 (平成30年)	15,559百万円	16,785百万円	18,054百万円
延べ宿泊者数	14千人 (平成30年)	40千人	66千人	100千人
満足度	81.6% (平成30年)	83.1%	84.6%	86.6%
リピーター率	64.4% (平成30年)	65.9%	67.4%	69.4%

※延べ宿泊者数目標値については、新規参入等の外的要因も考慮し設定。

※現状値及び目標値の算出根拠・方法

項目	算出方法	備考
観光入込客数	平成30年観光入込客数推計調査報告実績 × 伸び率	伸び率年 1.7%
観光消費額	平成30年1人あたり旅行消費額 × 伸び率 × 観光入込客数	消費額 伸び率年 1.0%
延べ宿泊者数	平成30年観光入込客数推計調査報告実績 × 伸び率	伸び率年 61.5%
満足度	平成30年基礎調査結果実績 + 伸び率	伸び率年 0.5%
リピーター率	平成30年基礎調査結果実績 + 伸び率	伸び率年 0.5%

## 第5章 福津観光振興の推進体制等

### 1. 推進体制

第1次福津市観光基本計画の基本方針1・推進体制づくりで位置づけた「福津市観光産業活性化協議会」については、本計画においても継続することとしますが、これまでの課題を踏まえ、受け持つ役割や構成メンバーの再編を行います。また、(一社)ふくつ観光協会を福津観光振興の核となる団体と位置付け、機能強化を図ります。

#### (1) 福津市観光産業活性化協議会の再編

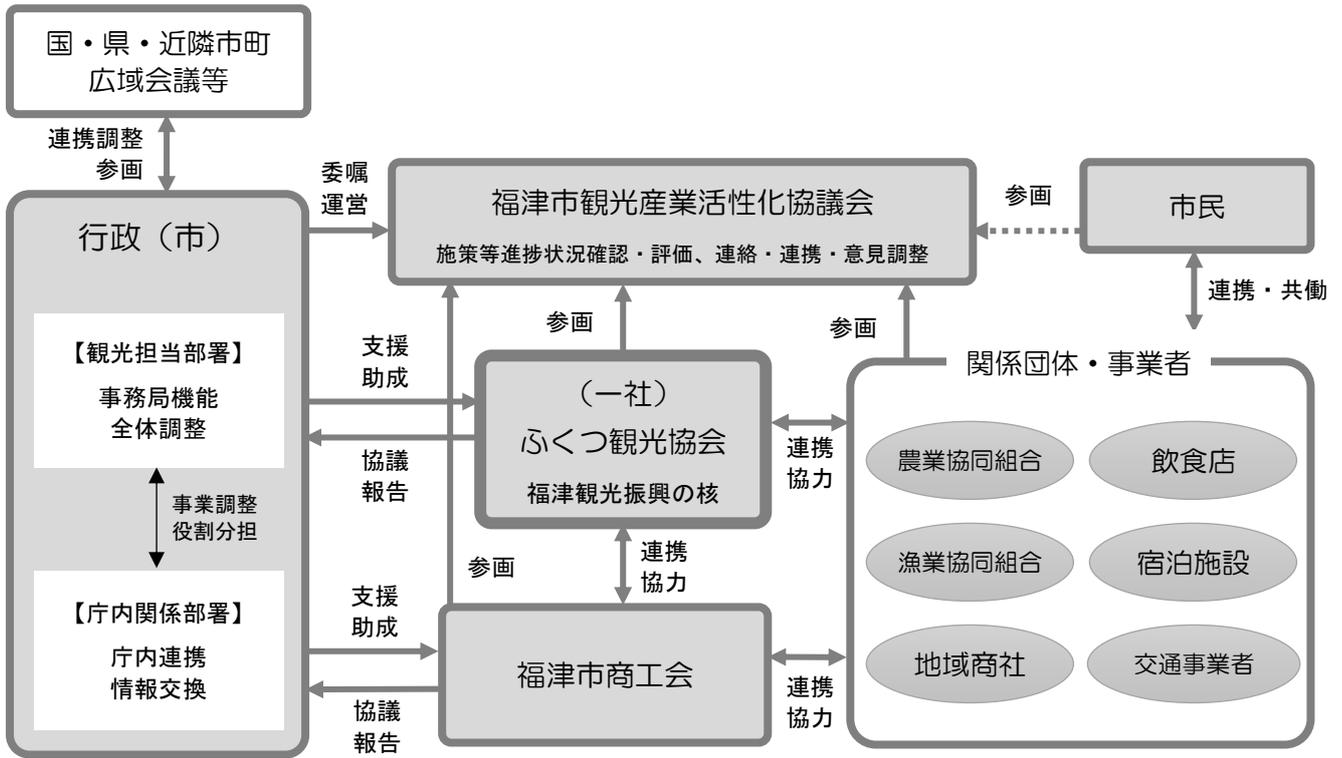
福津市観光産業活性化協議会が受け持つ役割は、本計画に掲げる各種施策・主な取り組みに対する進捗状況の確認や評価、課題解決のための連絡・連携・意見調整とします。また、構成メンバーは現在、福津市、(一社)ふくつ観光協会、福津市商工会、学識経験者、市民代表ですが、多岐にわたる施策の推進や課題解決を迅速に行うため、観光客と接する機会の多い事業者や団体の代表者等にも参画を促すこととします。

#### (2) (一社)ふくつ観光協会の機能強化と日本版DMOに相当する組織・事業実施体制の確立

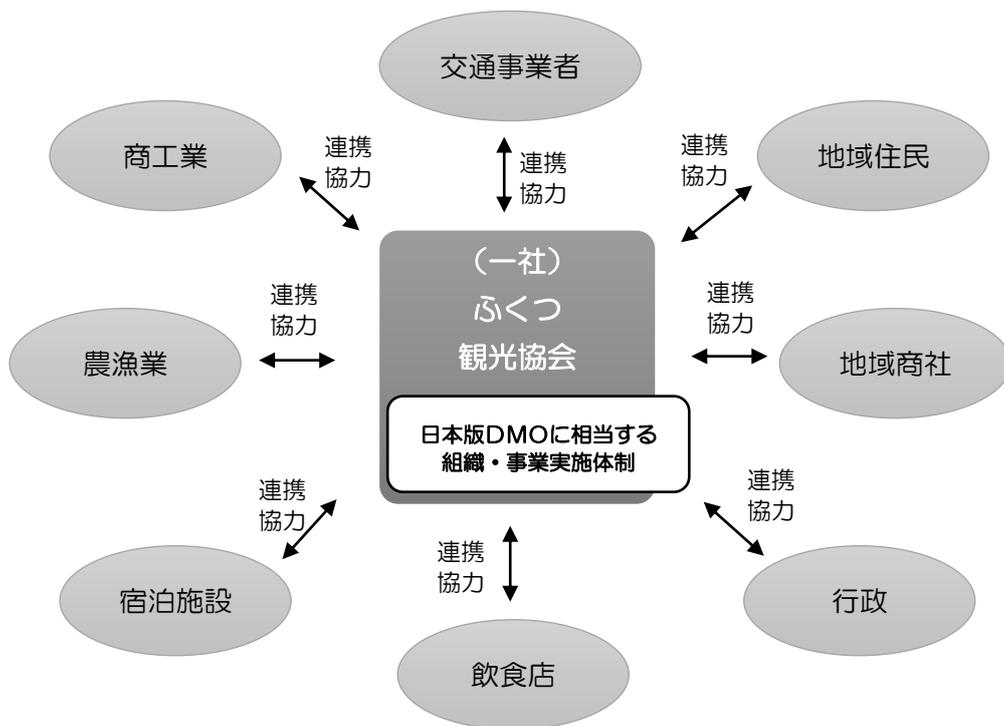
(一社)ふくつ観光協会を福津観光振興の核となる団体と位置付け、これまで以上に観光振興に関係する事業者・団体等を巻き込み、良い関係を築きつつ連携調整を図った上で、観光振興の担い手を逐次確保・育成し、主体的・戦略的・効率的・効果的に推進する機能の強化を図ります。また、いわゆる日本版DMOに相当する組織・事業実施体制の確立については、(一社)ふくつ観光協会を母体とし目指すこととします。その実現のため、市は(一社)ふくつ観光協会に対し、必要に応じて技術的支援や財政的支援を行います。

主な取り組み	取り組み主体					
	●：直接 ○：間接					
	行政	観光協会	商工会	関係団体	事業者	市民
○施策等の進捗状況確認・評価、連絡・連携・意見調整のための協議会として福津市観光産業活性化協議会を再編・位置づけ	●	●	●	●	●	○
○(一社)ふくつ観光協会の機能強化と日本版DMOに相当する組織・事業実施体制の確立	●	●	○	○	○	—

【計画の推進体制イメージ】

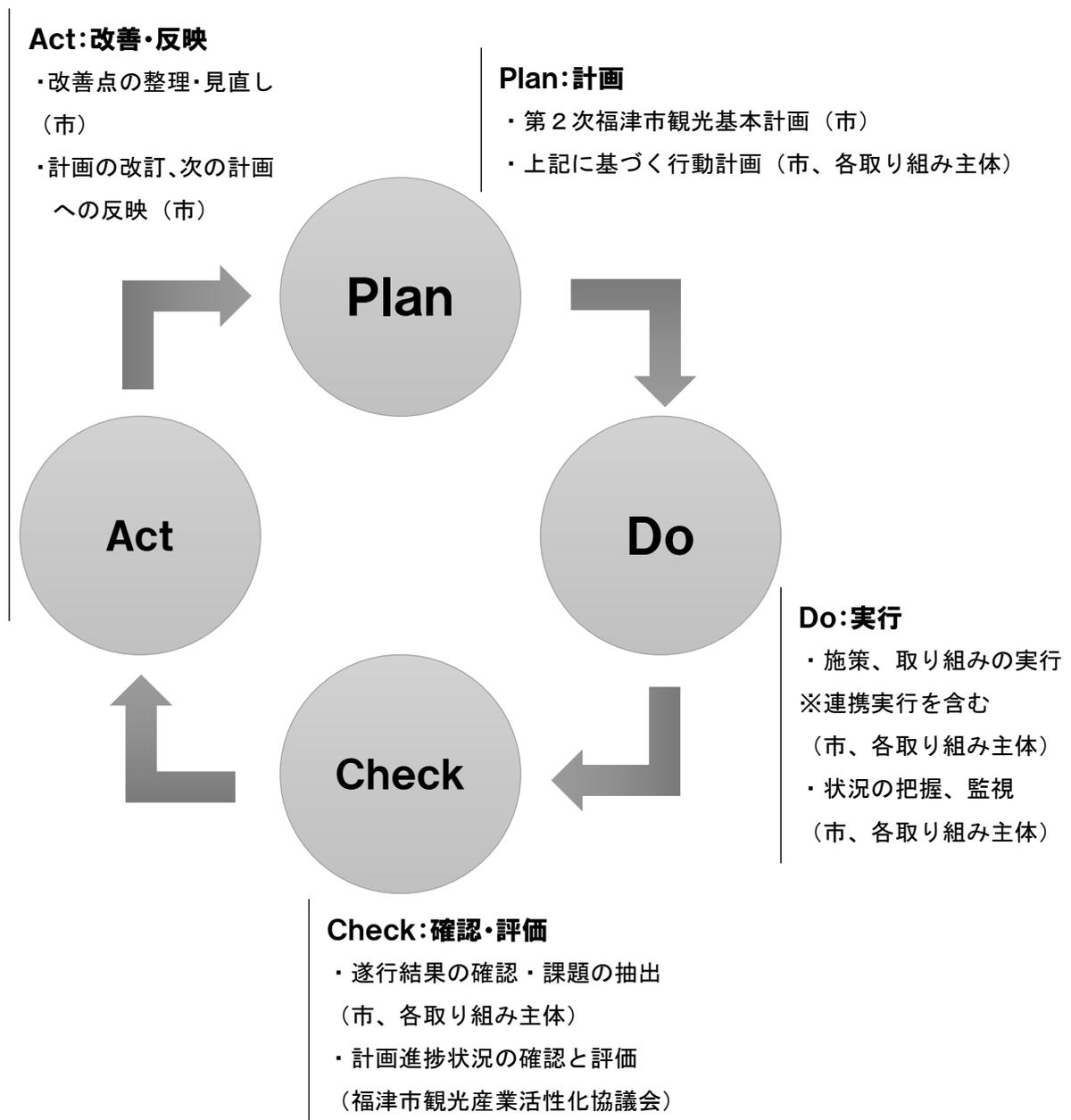


【機能強化・体制整備を行った（一社）ふくつ観光協会の事業推進イメージ】



## 2. 進行管理

本計画に掲げる各種施策や主な取り組みの進捗状況、及び目標値の達成状況の把握と管理については、随時検証を行いながら、必要に応じて施策や事業の改善を図る仕組み（PDCAサイクル）により実施し、その結果を踏まえ、必要となる新たな施策・取り組みの追加や当初想定した効果が見込めない事業の見直し・廃止等を行い、本計画の改善を図っていきます。

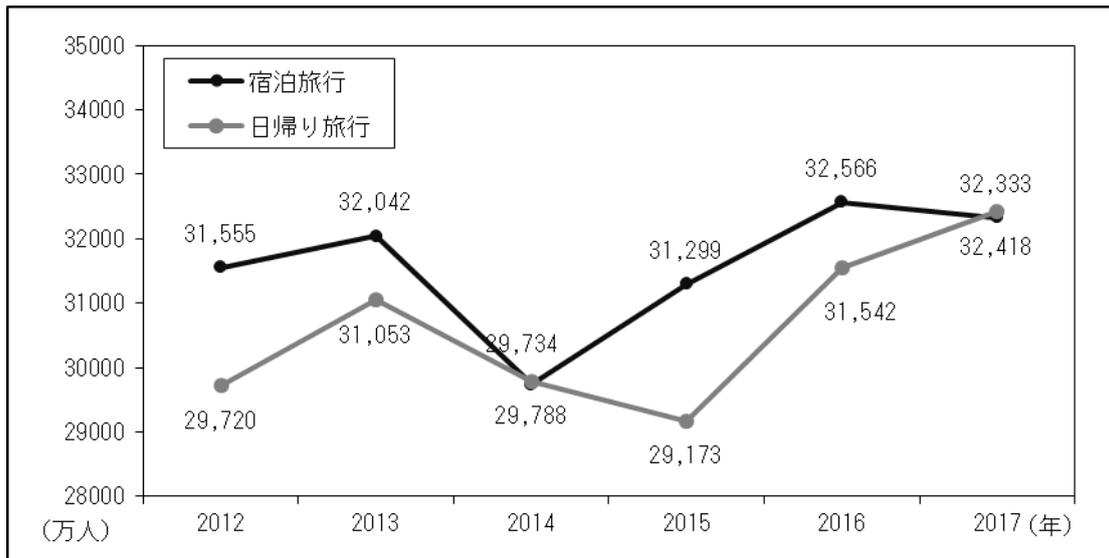


# 参考資料

## 1. 国内の観光動向

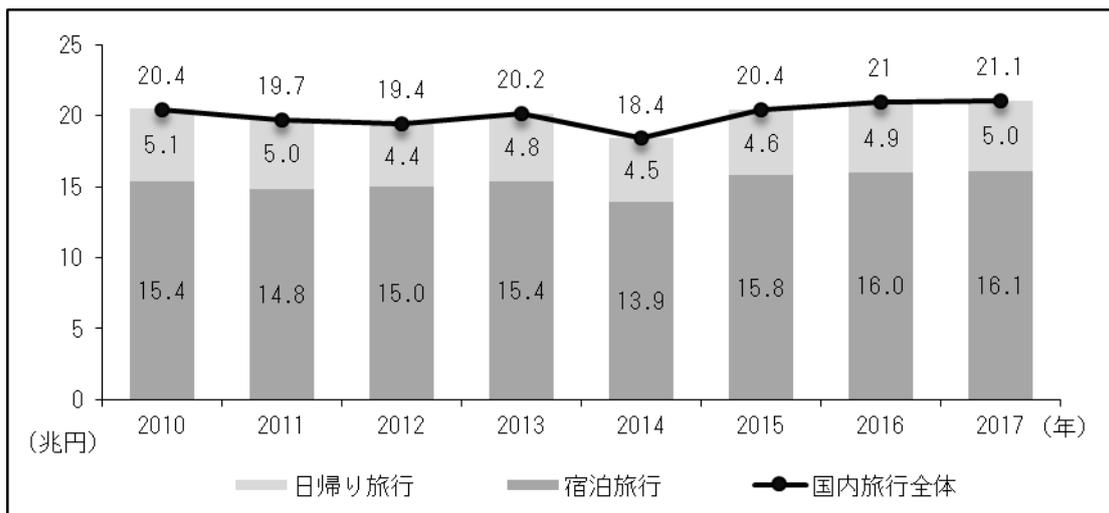
### (1) 国内旅行と旅行消費額

■ 日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移



※ 出典：平成 30 年度 観光白書

■ 日本人国内旅行消費額の推移



※ 出典：平成 30 年度 観光白書

## (2) 旅行のテーマ

### ■ 旅行テーマの推移

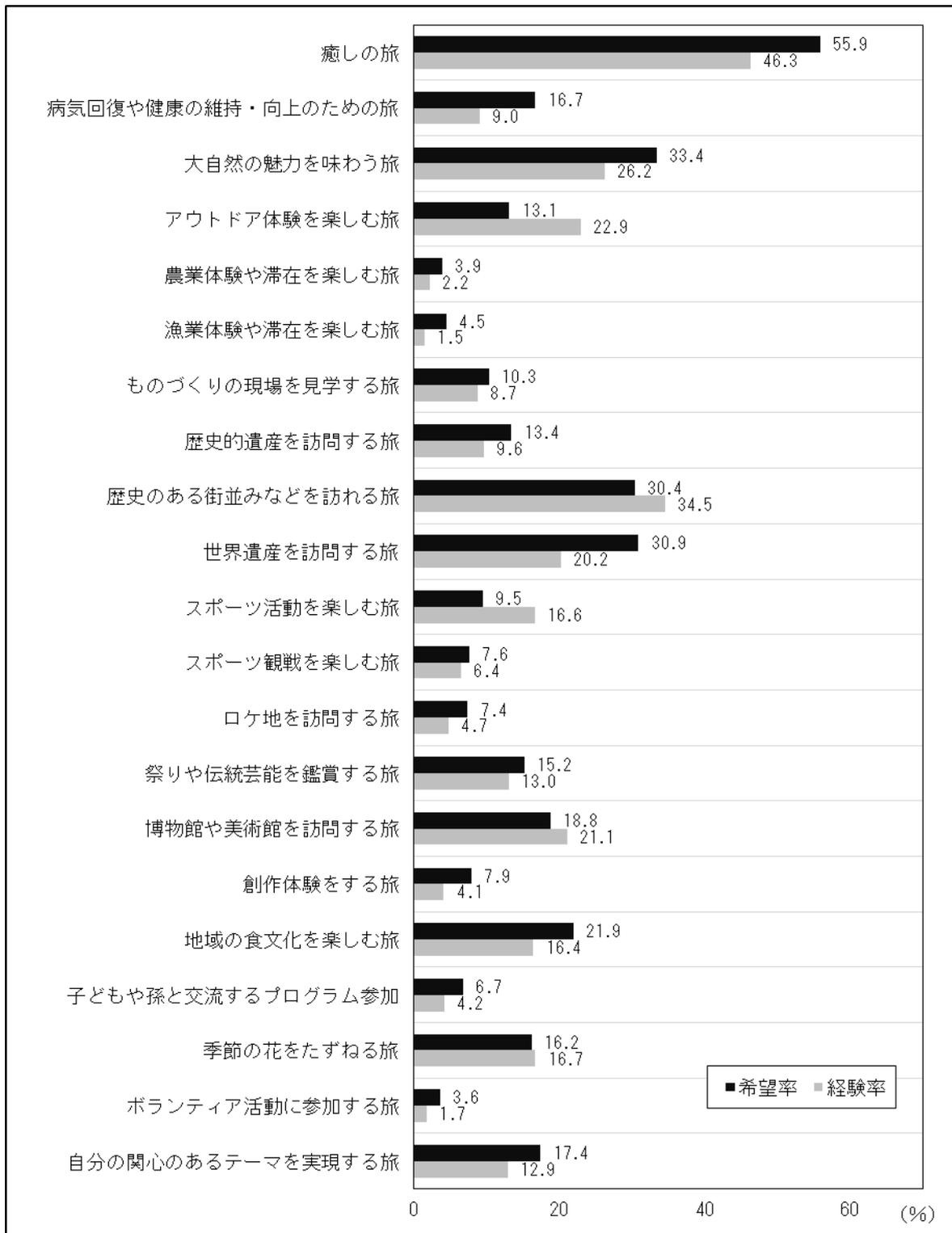
順位	2006年	経験率
1	癒しの旅	60.0
2	歴史のある街並み等を訪れる旅	38.4
3	大自然の魅力を味わう旅	34.2
4	アウトドア体験を楽しむ旅	33.3
5	スポーツ活動を楽しむ旅	28.2
6	博物館や美術館を訪問する旅	24.5
7	季節の花をたずねる旅	20.9
8	地域の食文化を楽しむ旅	17.4
9	祭りや伝統芸能を鑑賞する旅	16.9
10	世界遺産を訪問する旅	15.6
11	ものづくりの現場を見学する旅	15.4
12	自分の関心のあるテーマを実現する旅	12.6
13	病気回復や健康の維持・向上のための旅	10.0
14	歴史的遺産を訪問する旅	9.5
15	子どもや孫と交流するプログラム参加	8.9
16	スポーツ観戦を楽しむ旅	8.4
17	創作体験をする旅	7.8
18	ロケ地を訪問する旅	5.5
19	農業体験や滞在を楽しむ旅	3.1
20	漁業体験や滞在を楽しむ旅	2.0
21	ボランティア活動に参加する旅	1.3



順位	2014年	経験率
1	癒しの旅	46.3
2	歴史のある街並み等を訪れる旅	34.5
3	大自然の魅力を味わう旅	26.2
4	アウトドア体験を楽しむ旅	22.9
5	博物館や美術館を訪問する旅	21.1
6	世界遺産を訪問する旅	20.2
7	季節の花をたずねる旅	16.7
8	スポーツ活動を楽しむ旅	16.6
9	地域の食文化を楽しむ旅	16.4
10	祭りや伝統芸能を鑑賞する旅	13.0
11	自分の関心のあるテーマを実現する旅	12.9
12	歴史的遺産を訪問する旅	9.6
13	病気回復や健康の維持・向上のための旅	9.0
14	ものづくりの現場を見学する旅	8.7
15	スポーツ観戦を楽しむ旅	6.4
16	ロケ地を訪問する旅	4.7
17	子どもや孫と交流するプログラム参加	4.2
18	創作体験をする旅	4.1
19	農業体験や滞在を楽しむ旅	2.2
20	ボランティア活動に参加する旅	1.7
21	漁業体験や滞在を楽しむ旅	1.5

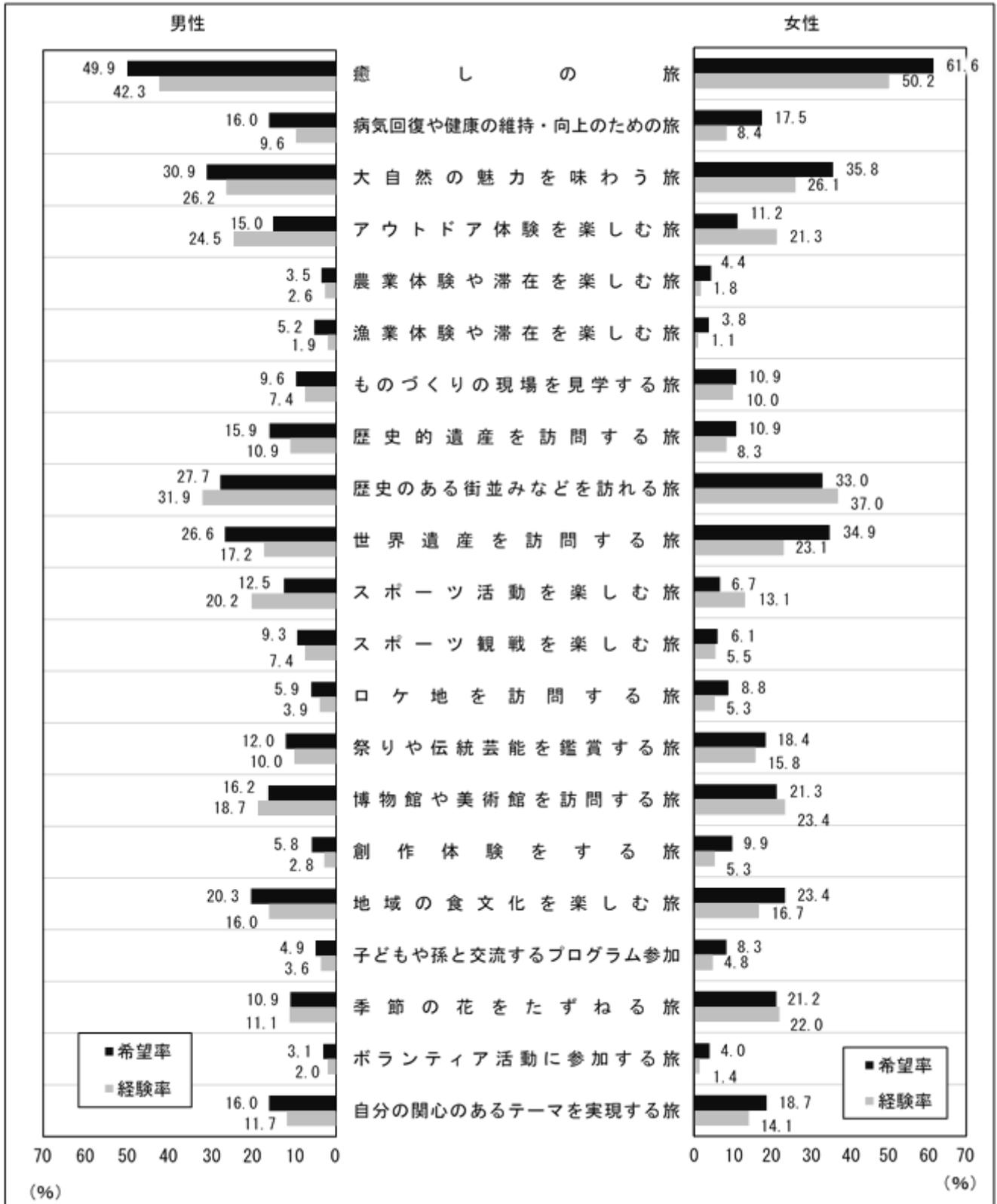
※ 出典：平成29年 レジャー白書

## ■ 旅行テーマ別希望率と経験率



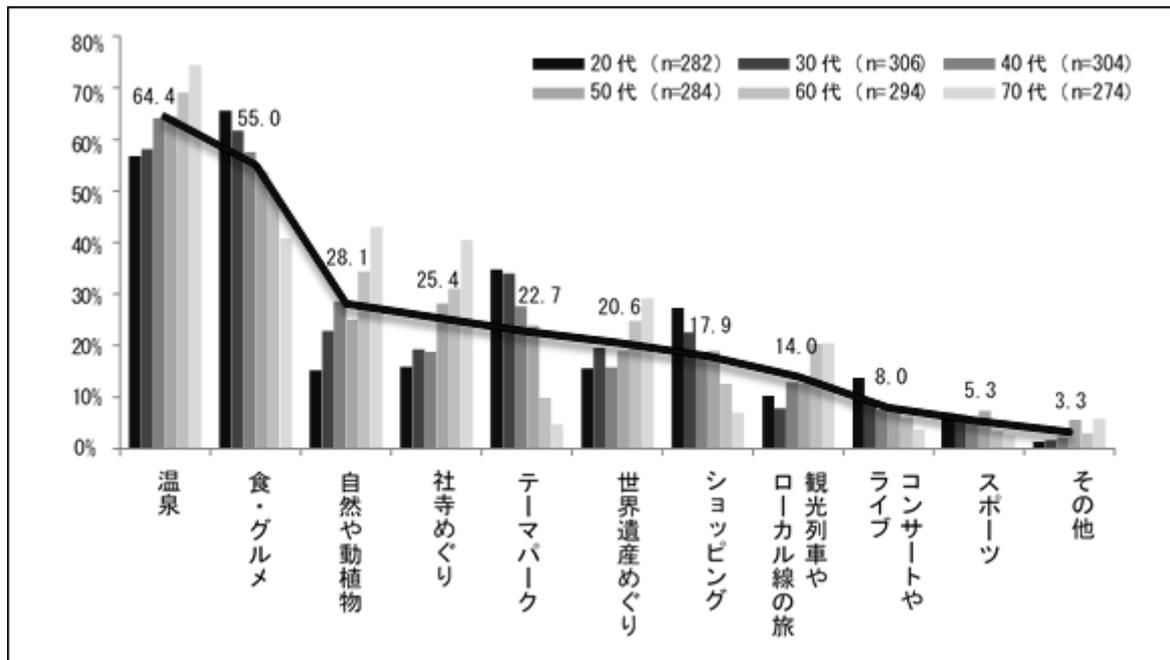
※ 出典：平成 29 年 レジャー白書

■ 旅行テーマ別希望率と経験率（男女別）



※ 出典：平成 29 年 レジャー白書

■ 国内旅行のテーマ（テーマとして選ぶことが多いもの3つ）（n=1,744）

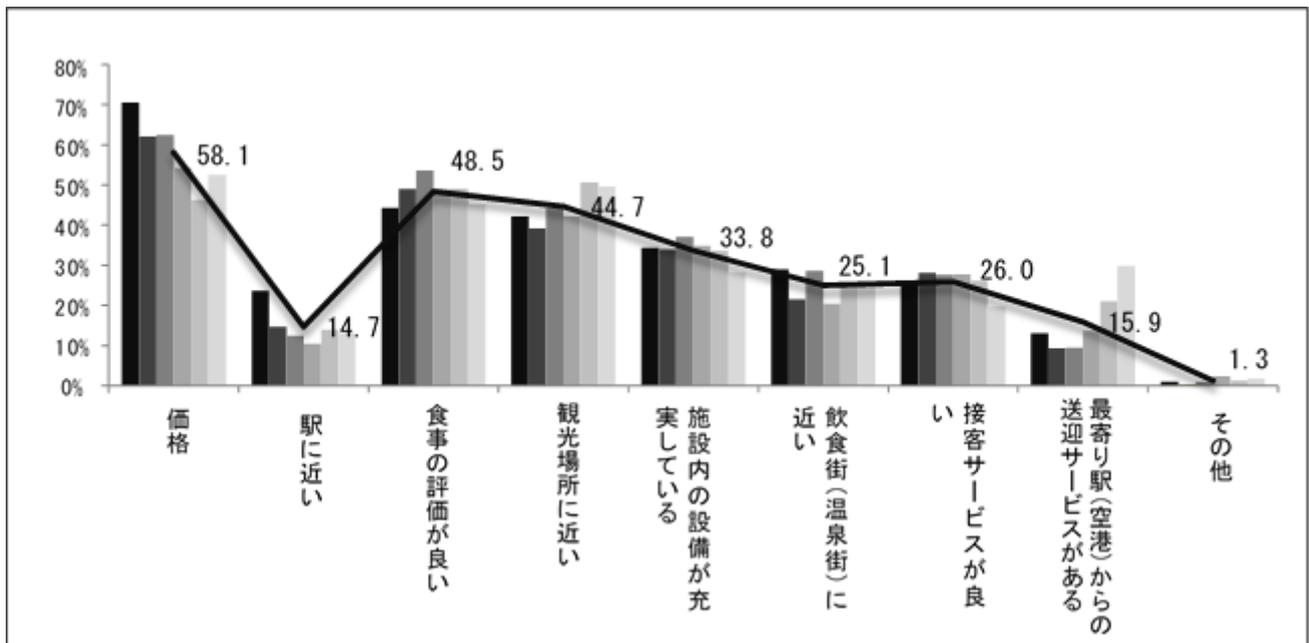


※ 出典：平成 29 年「食と旅に関する調査」（株式会社ジェイティービー）

(3) 宿泊施設

■ 宿泊施設を選ぶ際に重視する点（地方の観光地に立地する施設）複数回答

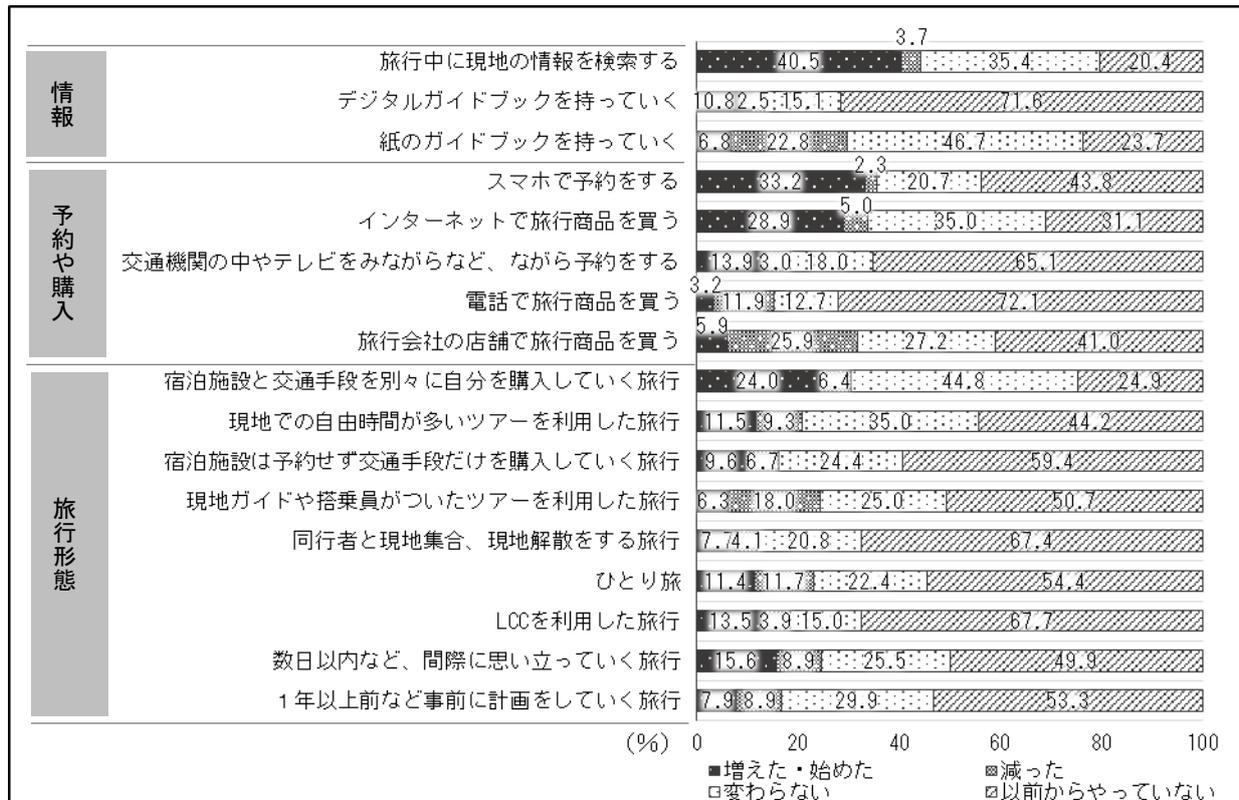
(n=1,744)



※ 出典：平成 29 年「食と旅に関する調査」（株式会社ジェイティービー）

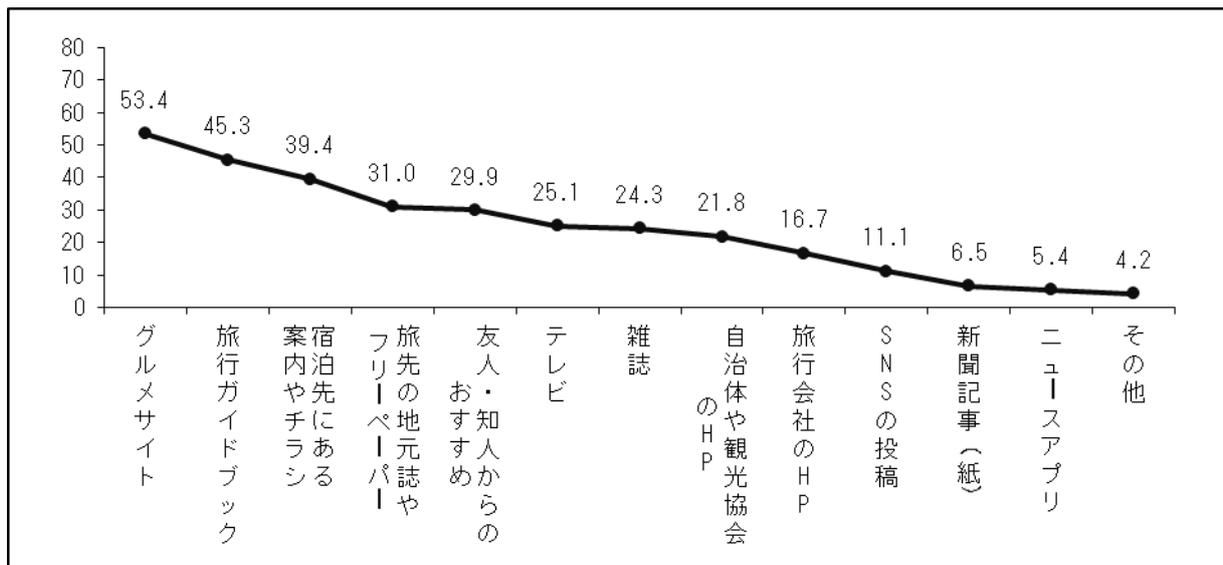
#### (4) 旅行スタイルや情報源

##### ■ 旅行スタイルが変わったこと（3年くらい前との比較）単一回答（n=1,030）



出典：平成 30 年「新しい技術やサービスの広がりとライフスタイルに関する調査」  
（株式会社 JTB 総合研究所）

##### ■ 旅行先での食事を決める際の情報源（n=1,744）

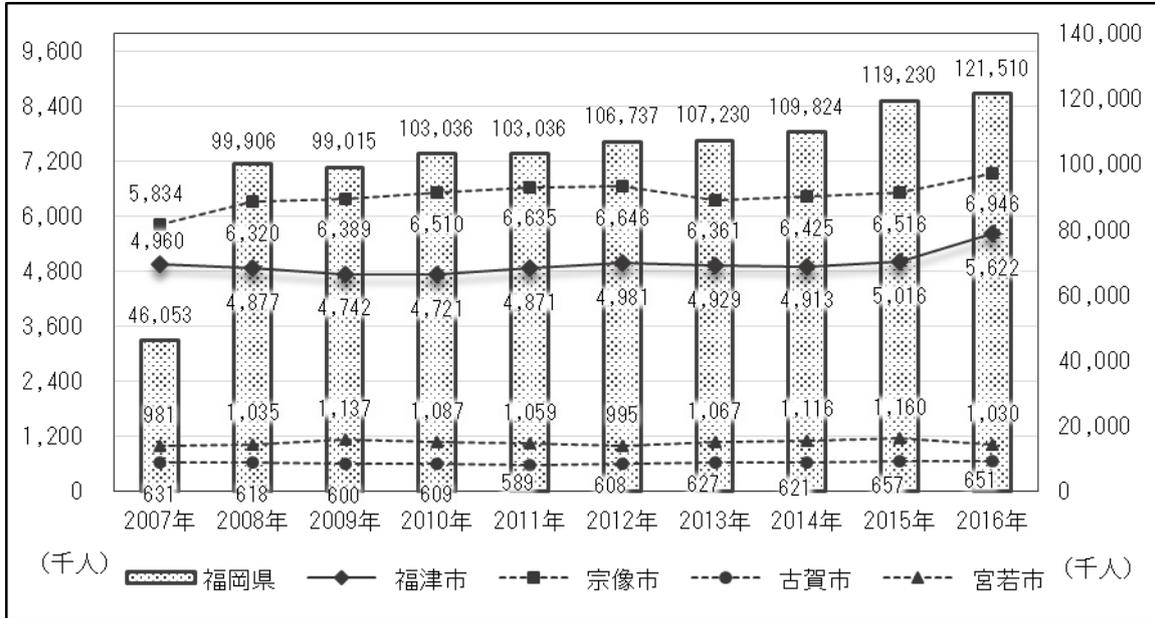


出典：平成 29 年「食と旅に関する調査」（株式会社ジェイティービー）

## 2. 福津市及び隣接する地域の観光動向

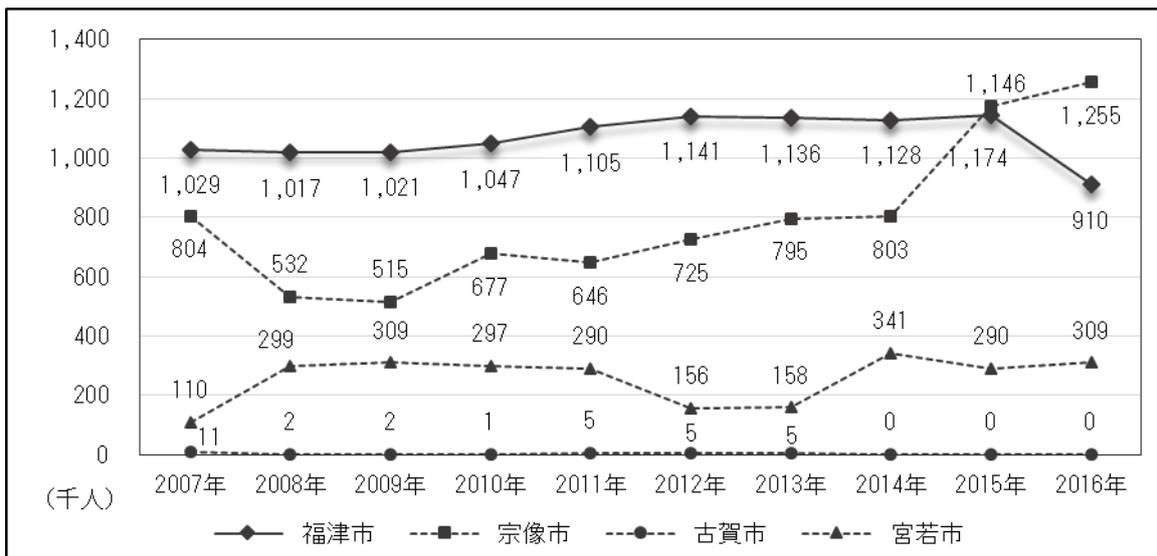
### (1) 観光入込客数

■ 市町村別・入込客数の推移



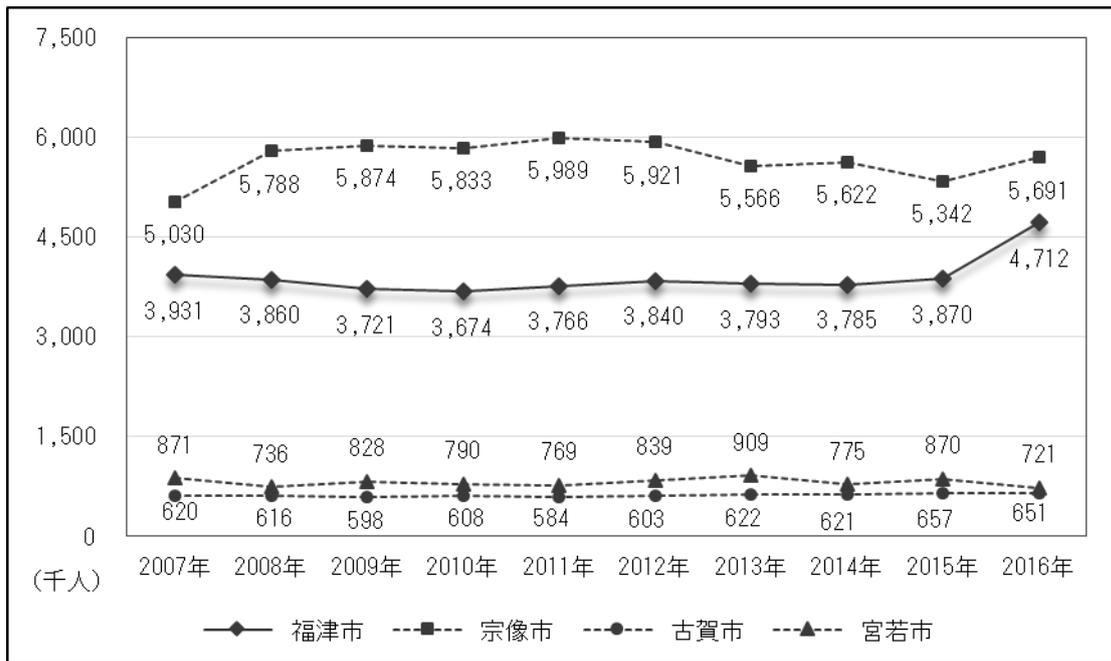
※ 出典：各年の福岡県観光入込客推計調査

■ 市町村別・入込客数の推移（県外からの来訪）



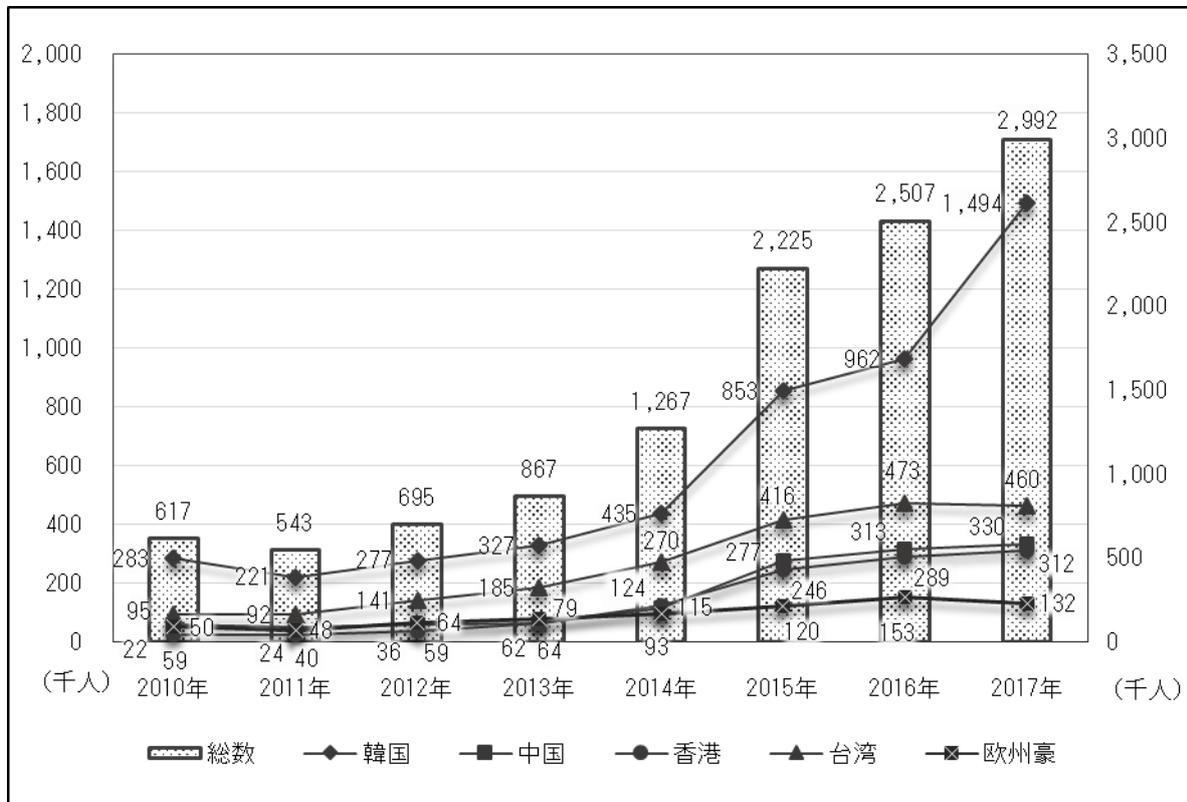
※ 出典：各年の福岡県観光入込客推計調査

■ 市町村別・入込客数の推移（県内からの来訪）



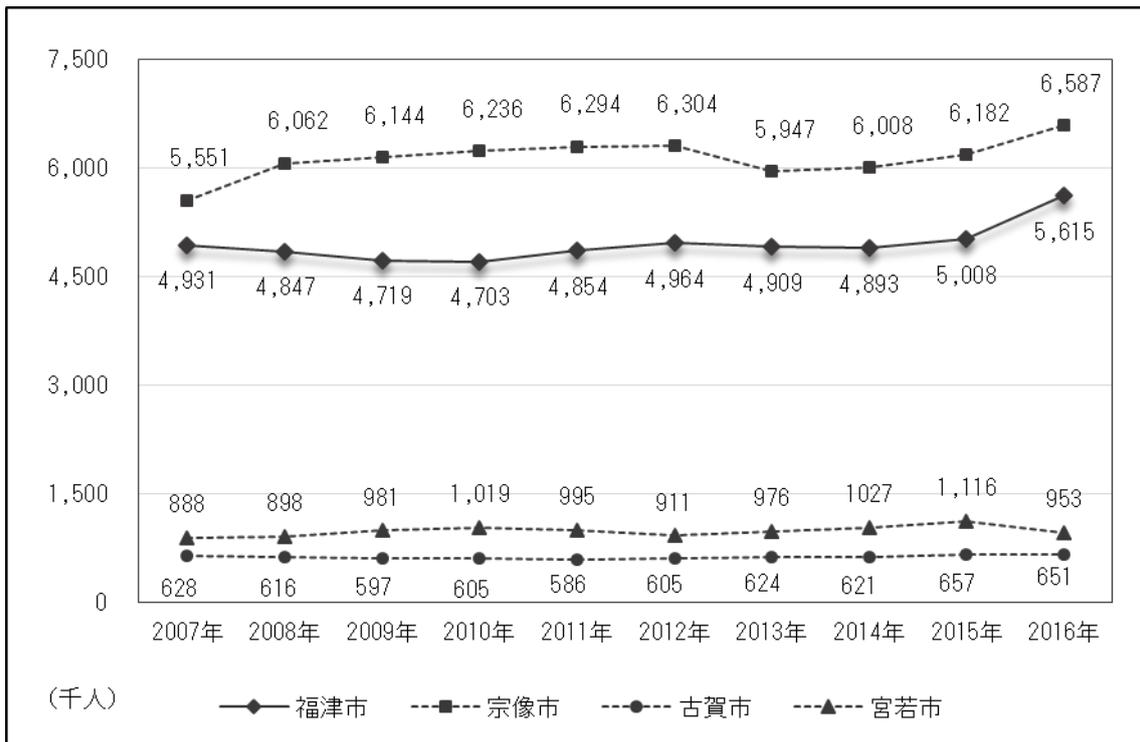
※ 出典：各年の福岡県観光入込客推計調査

■ 国籍別・外国人宿泊者数の推移（海外から福岡県への来訪）



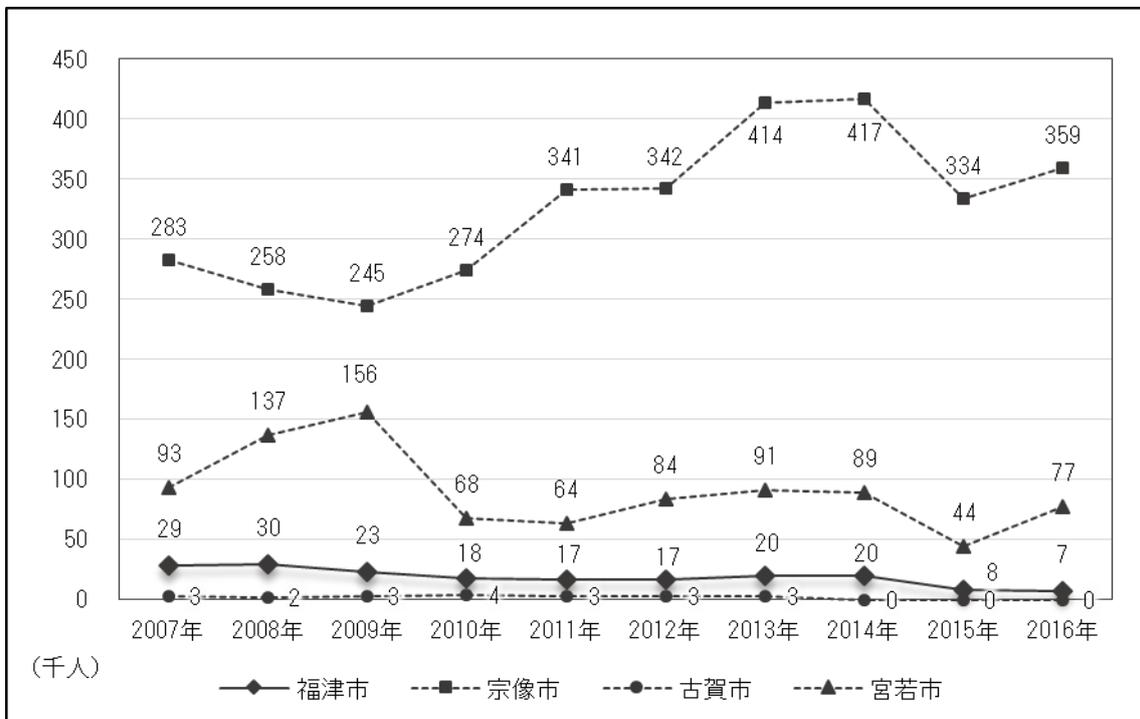
※ 出典：観光庁「宿泊旅行統計」

■ 市町村別・入込客数の推移（日帰り）



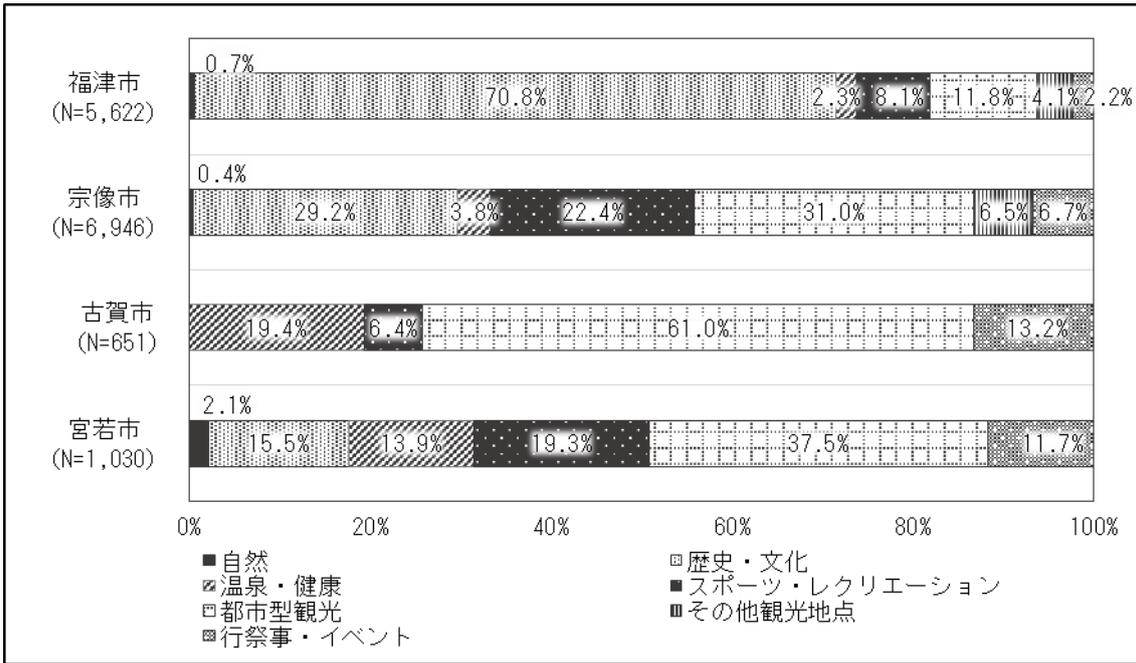
※ 出典：各年の福岡県観光入込客推計調査

■ 市町村別・入込客数の推移（宿泊）



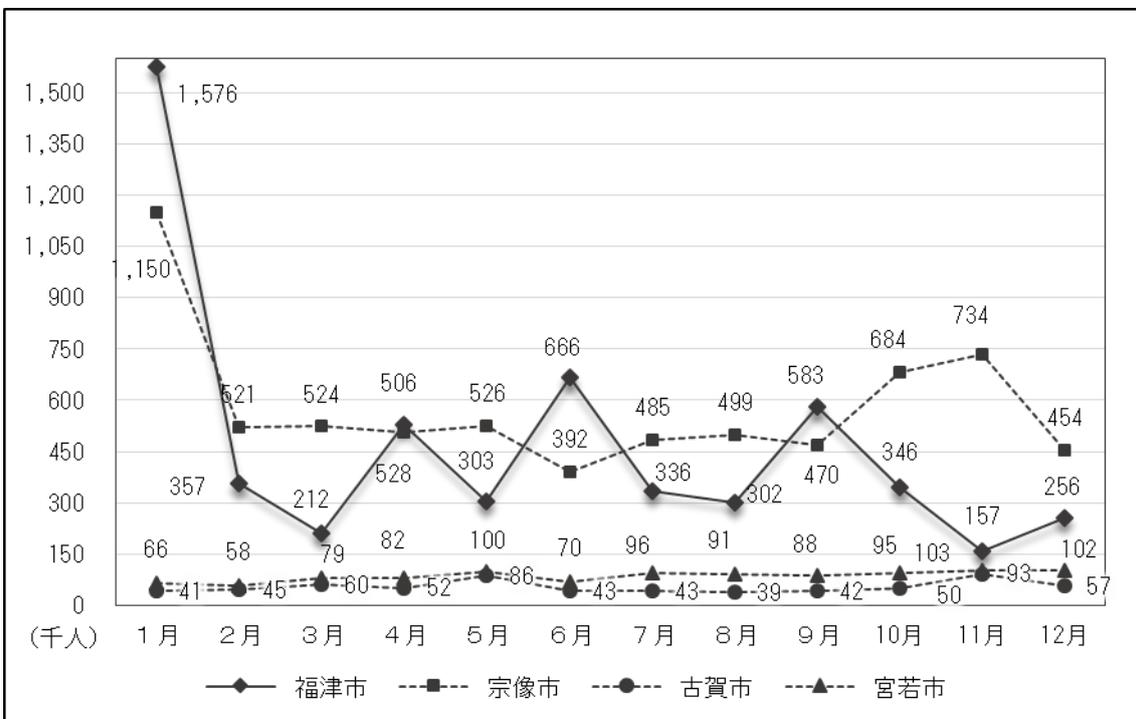
※ 出典：各年の福岡県観光入込客推計調査

■ 市町村別・目的別・入込客数（平成 28 年）



※ 出典：福岡県観光入込客推計調査（平成 28 年）

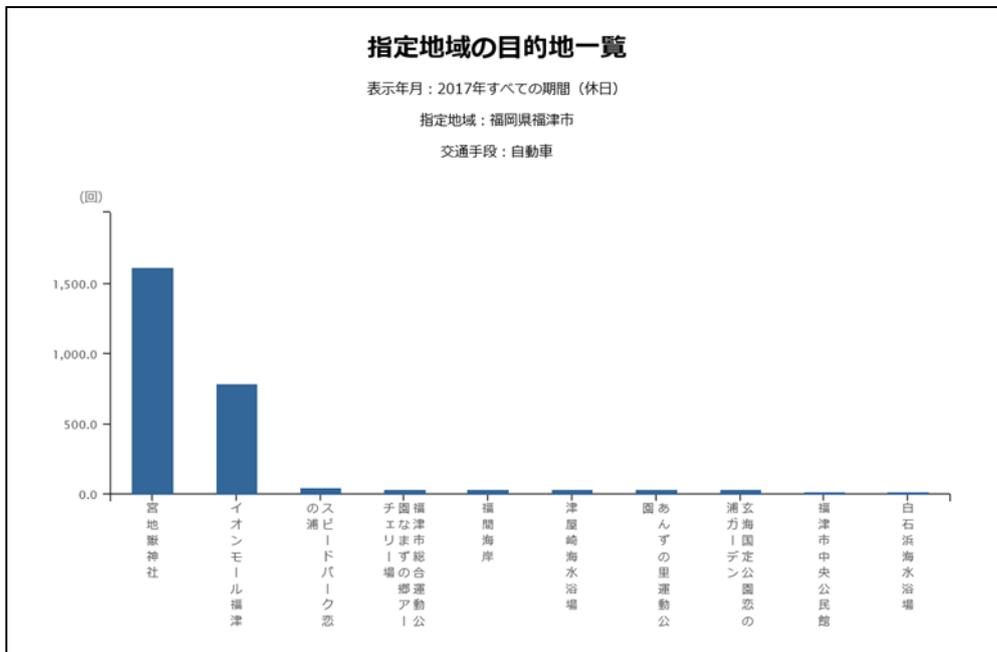
■ 市町村別・月別・入込客数（平成 28 年）



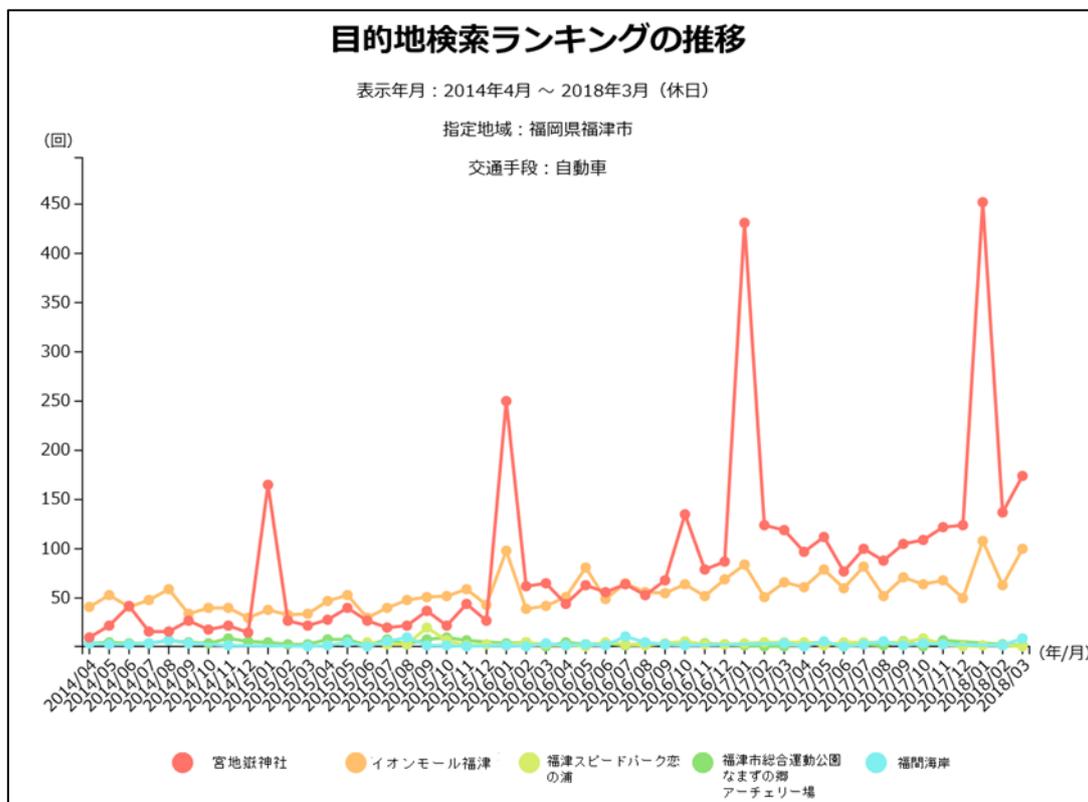
※ 出典：福岡県観光入込客推計調査（平成 28 年）

## (2) 地域経済分析システム (RESAS)

### ■ 目的地の検索ランキング (平成 29 年、休日・自動車利用)



### ■ 目的地の月別検索数の推移 (2014年～2018年 自動車利用)



### (3) 福津市の観光資源



### 3. 福津市の観光に係る基礎調査

#### (1) 観光地点パラメータ調査

##### ①調査目的

福津市に訪れる観光客の実態や満足度等について把握するために、来訪者を対象としたアンケート調査を実施

##### ②調査概要

###### ■ 調査内容

調査対象	福津市の以下の観光スポットに訪れた市外の者（日本人・外国人） ① 宮地嶽神社 ② あんずの里 ③ ふれあい広場ふくま ④ お魚センターうみがめ ⑤ 津屋崎千軒なごみ
調査方法	各観光スポットに調査員を配置し、調査票を配布し聞き取り調査
実施時期	平成30年6月7日（木）～8月30日（木）
調査項目	基本属性、旅行人数・同行者、訪問回数、旅行の形態と滞在日数、滞在時間、旅行の目的、交通手段、訪問箇所、旅行消費額、情報媒体、満足度、改善点

###### ■ 回収数

地点	日本人（票）	外国人（票）	計
① 宮地嶽神社	303	5	308
② あんずの里	50	-	50
③ ふれあい広場ふくま	60	-	60
④ お魚センターうみがめ	50	-	50
⑤ 津屋崎千軒なごみ	31	1	32
全体	494	6	500

##### ③調査結果

居住地	回答者の居住地は「九州」が82.0%と高く、県内外比は「県内」が72.8%と高い割合である。また、県内の内訳では「福岡市」が36.8%と高く、次に「北九州市」や近隣の「古賀市」、「宗像市」が高い割合である。
性別と年代	回答者の性別は「男性」が50.4%、「女性」が49.6%である。年代は「50代」が26.6%と割合が高い。男性では「50代」の30.5%と高く、女性では「40代」と「50代」の22.6%と高い割合である。10代以下の年代が1割未満と低い割合である。
旅行人数と同行者	旅行人数は、「2人」が55.2%と高く、同行者は「家族」が32.0%と高い。友人のグループの内訳では「女性グループ」が66.0%と高い割合である。
旅行形態と滞在日数	回答者の旅行の形態は「日帰り」が77.6%と高い。宿泊した回答者の中で、宿泊数は「1泊」が13.0%と高く、主な宿泊地は宗像市や福岡市を含む「福岡地域」の割合が62.5%と高くなっている。
訪問回数	回答者の市への訪問回数は「4回目以上」が54.8%と高い。地点別にみると、宮地嶽神社では「1回目」が52.9%で、「4回目以上」

	<p>の36.7%より16.2%高い割合である。その他の地点では「4回目以上」が約7割から約9割となっている。年代別にみると「1回目」は10代以下の60.0%が高く、「4回以上」は60代以上の76.9%が高い。旅行形態別にみると、日帰りでは「4回以上」の67.5%が高く、宿泊では「1回目」の85.7%が高い。</p>
滞在時間	<p>回答者の滞在時間は「1-3時間」が68.8%と高く、そのうち「1時間代」が34.8%と高い。</p> <p>また、地点別に見ると全ての地点で「1-3時間」が半数以上となっている。同行者別にみると、3時間以下では家族の割合、「4-6時間」では友人の割合、「7-9時間」では家族の割合が高くなっている。</p> <p>さらに、福津市に訪れた時間を見ると「9-11時」に訪れている回答者が45.6%と多く、福津市から帰る・移動する時間は「15-17時」が50.6%と多い。</p>
目的	<p>旅行の目的は「神社の参拝」が54.6%、次いで「買い物」27.8%。「神社の参拝」では、市への訪問回数が1回目と2回目の割合が高く、夫婦・カップル等の同行者の割合が高い。</p>
交通手段	<p>福津市までの交通手段は「自家用車」が78.0%と高い割合である。また、「JR」で訪れた回答者のうち、市内の交通手段は「路線バス」が66.1%と高い割合である。</p>
訪問先・訪問箇所	<p>訪問先は、市内のみの訪問が65.0%と高くみられる。</p> <p>訪問箇所数は、市内のみの訪問では「1ヶ所」が45.8%と高く、市外も含めた訪問では「2ヶ所」が53.7%と高い。旅行形態でみると、日帰りに比べ宿泊の「2ヶ所」が10.0%高い。</p> <p>市内の訪問先では「宮地嶽神社」が70.4%と最も高い。男女別にみると、女性に比べ男性の「宮地嶽神社」の割合が2.8%高い。同行者別にみると「宮地嶽神社」は家族や夫婦・カップルが多い。</p> <p>市外を含めた訪問者の市外の訪問先では「宗像市」が74.3%と最も高い。同行者別にみると「宗像市」は家族や夫婦・カップルが多い。</p> <p>観光した訪問先の順位では「宮地嶽神社」のみの訪問が86人と最も多く、次いで「宮地嶽神社」と「宗像市」を訪問した回答者が62人と多い。また、上位15位の25種の組み合わせの中で「宮地嶽神社」が17回あがっている。</p>
消費額	<p>全体の旅行消費額の一人あたりの平均金額は2,508円で、交通費を除いた平均額は1,973円、交通費・宿泊費を除いた平均額は1,959円である。項目ごとの平均額は、交通費3,341円、宿泊費7,000円、お土産代他2,698円、飲食費1,648円、入場料等1,183円である。</p> <p>お土産代他において、男女別の割合でみると、男性の「0円」の割合が女性に比べ10.3%高く、3,000円以上では女性の割合が高い。年代別にみると、20-30代の「0円」の割合が72.1%と最も高い。また、平均金額は2,698円で、津屋崎千軒なごみの費用が全体の平均より990円高い。</p> <p>飲食費において、男女別の割合でみると、女性に比べ男性の「2,000円代」以上の割合がやや高い。年代別にみると60代以上の「0円」が59.2%と半数以上を占めている。また、平均金額は1,648円で、ふれあい広場ふくまの費用が平均より219円高い。</p>
情報媒体	<p>「以前から知っていた」が31.8%と最も高い。主な情報媒体は「家族・知人の話」や「テレビ・ラジオ」となっている。「その他」の中で「インターネット」の回答が51件である。</p>

満足度	「福津市で立ち寄った観光スポット・施設」や「景観・まちなみ」、「接客やおもてなし」に対する満足度では、「大変良い」の割合が高い。「案内標識や看板の分かりやすさ」や「福津市内での移動のしやすさ」に対する満足度の「やや悪い」と「悪い」の比率が他の満足度と比べ高い。観光地の駐車場の場所や観光地への行き方が分かりづらい、バスの本数が少ない等の意見がある。「Wi-Fi・通信環境」の満足度では、「不明」が36.8%と高い。スポットの場所が分からないといった回答がある。
改善点 必要な取組	「店」では、営業時間の延長や商品の補充等の意見がある。 「特産品」では、何が特産品なのか分からないといった意見がある。 「PR・宣伝」では、宣伝不足や観光地のPR等の意見がある。 「交通」では、公共交通機関の本数が少ない等の意見がある。 「駐車場」では、観光地の駐車場が分かりにくいといった意見がある。 「観光地について」では、観光地の活性化等の意見がある。 「整備」では、トイレ等の設備や観光地の整備に関する意見がある。 「その他」では、観光スポットやモデルコース、イベントを増やすことや周遊バスが欲しい等の意見がある。

## (2) インバウンド調査

### ①調査目的

市内における外国人観光客の動向やニーズ等を把握するため、外国人観光客のニーズ等に詳しい人物を選定して市内の主要な観光スポットを案内し、ヒアリング調査を実施

### ②調査概要

調査対象	外国人の意向に詳しい人物として、以下の方への調査を実施。 インアウト株式会社 帆足取締役副社長
実施方法	観光資源に案内し、評価・改善点等の意見を聴き取る。 (視察場所) ① 福津市行政・観光情報ステーション「ふっくる」 ② 宮地嶽神社 ③ つやざき漁港食堂「空と海」、お魚センターうみがめ ④ 津屋崎千軒（なごみ、藍の家、豊村酒造） ⑤ 新原・奴山古墳群 ⑥ あんずの里（直売所）
実施時期	平成30年7月4日（水）

### ③調査結果

案内・看板	市内観光地の案内や看板、説明が不足している歴史の説明や案内が必要
商品等の 展開	パンフレットやお土産、商品の陳列の工夫や試食、POP、レシピ等が必要
観光客に 対する取組	体験やイベント等の取組が必要 観光客を歓迎する雰囲気づくりが必要

## (3) 団体等ヒアリング調査

### ①調査目的

市内の観光事業に関連する主要な団体や事業者等の現状と取組、ニーズ等を把握するた

めに、対面形式でのヒアリング調査を実施

②調査概要

調査対象	観光に係る市内の主な団体として、以下の10団体への調査を実施。 ① 一般社団法人ふくつ観光協会 ② 福津市商工会 ③ 宗像漁協津屋崎支所 ④ JAむなかた ⑤ あんずの里市利用組合 ⑥ 宮地嶽神社 門前町組合 ⑦ ふくつ観光協会 ボランティアガイドの会 ⑧ JR福間駅 ⑨ 西鉄バス宗像(株) ⑩ 藍の家保存会
調査方法	団体等に訪問して、聴き取り調査を行った。
実施時期	平成30年7月17日(火)～7月18日(水)
調査内容	団体概要、観光客の動向、取組とその課題、強み・弱み、観光振興の課題

③調査結果

■ 福津市の観光における強みと弱み

団体等名称	強み	弱み
一般社団法人 ふくつ観光協会	・福岡市に近い ・宮地嶽神社等の観光地がある	・宿泊施設が少ない ・第2次交通が弱い
福津市商工会	・山笠等の伝統的なイベントを開催している	・宿泊施設が少ない
宗像漁協 津屋崎支所	・自然が豊かであること ・宮地嶽神社の光の道 ・大峰山から沖ノ島が見える ・子どもが遊べる場所がある	・自然を楽しめる場所が少ない ・宿泊施設が少ない
JAむなかた	・農業の栽培品目が多種多様であること ・都市部と農村部のバランスが良いため、地元での農産物の消費が期待できる ・東郷公園等の歴史のある場所が多い	・宮地嶽神社以外で、絶対的な観光スポットが少ない
あんずの里市 利用組合	・宮地嶽神社や光の道 ・津屋崎千軒 ・海岸線の浜浴い ・花とトマトの売上が高い	・特産品の種類が少ない ・果物等の単価高い商品が少ない
宮地嶽神社 門前町組合	・地域の人の人柄が良い ・観光地スポットがある ・イベントを開催している	・公共交通機関が弱い ・バスの本数が少なく、行き先が分かりにくい ・トイレや案内板等の整備が不十分
ふくつ観光協会 ボランティアガイド の会	・福岡市や筑豊地区、北九州市からのアクセスがしやすい ・海岸の砂が綺麗で魅力的 ・宮地嶽神社や光の道	・宿泊施設が少ない ・観光バス立ち寄ることができる飲食店や休憩場が少ない ・新原、奴山古墳群にお土産屋や休憩所がない

藍の家保存会	・自然と歴史	・アクセスが悪い
JR福間駅	・世界遺産 ・宮地嶽神社 ・海と山等の自然	・福津の良さが周知されていない ・他県に対してのPRや露出が少ない
西鉄バス宗像(株)	・宮地嶽神社 ・津屋崎千軒	・子どもが遊べるプールやプラネタリウム等の子どもが喜ぶ施設が少ない ・子どもが雨の日に遊べる児童館等の施設が少ない ・恋の浦海岸が活用されていない

■ 観光客や来訪客を誘致していく上での課題

団体等名称	課題
一般社団法人 ふくつ観光協会	・宮地嶽神社から周遊できる仕掛けや、観光スポットの発掘、アピールの工夫が必要である ・それぞれの観光スポットがつながっていない
福津市商工会	・割烹旅館等はあるが、宿泊施設が少ない ・外国人の受入れ体制が取れていない ・年配の事業者が多いため、外国人の対応は難しい ・いろいろな名産品があり、統一感がない
宗像漁協津屋崎支所	・季節ごとのイベントを行っているが、周知されていない ・外国人観光客への対策を考える必要がある
JAむなかた	・沢山の資源が周知されていない
あんずの里市利用組合	・観光客に向けたお土産品が少ない
宮地嶽神社門前町組合	・バスの本数を増やす ・バス乗り場の整備 ・トイレや案内の整備が必要
ふくつ観光協会 ボランティアガイドの会	・食事をする場所がない ・観光の拠点がない ・大型観光バスが立ち寄れるような大型の休憩場がない ・海岸で足を洗う場所がない
藍の家保存会	・千軒通りがシャッター街になっている ・他の団体との情報共有ができる関係を築いていく必要がある
JR福間駅	・県外に向けて、PRや露出を増やす必要がある ・山や自然について周知してもらえるような取組が必要
西鉄バス宗像(株)	・名産品を楽しめる場所が必要 ・市内の観光地を周遊する際に、乗り継ぎが多いため効率よく周れない

■ 観光客や来訪客を誘致していく上での方策案

団体等名称	方策案
一般社団法人 ふくつ観光協会	・海岸をビーチサップやビーチヨガ等ができる、魅力的で健康的な海岸にする ・写真の効果が強いいため、観光協会のSNS (Instagram) を作成しPRする ・個人で訪れる外国人観光客が増えているため、インバウンドへ向けて取組を行う ・モマの絵付けやいちご狩り等の体験メニューを増やす ・福間駅周辺に、待ち時間に立ち寄ることができる休憩スポットを設ける

福津市商工会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントの際に、来訪客が店に流れるような仕組みづくり</li> <li>・ 外国人対応に関する研修会を近場で参加可能な時間に行う</li> <li>・ 商工会や観光協会等の団体が一つとなって進めていく必要がある</li> </ul>
宗像漁協津屋崎支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿泊施設が必要</li> <li>・ ハイキングコース等のコースが必要</li> </ul>
J Aむなかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耕作放棄の地域を貸農園等の取組を行い、観光と農村の融合を実現する</li> <li>・ 農家民泊等の取組を行う</li> </ul>
あんずの里市利用組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特産品や地元のをPRしていく</li> </ul>
宮地嶽神社門前町組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お正月やお祭りに訪れる方が多いため、イベントを増やす 特に1ヶ月程度のフェアを行うと良い</li> <li>・ 宮地嶽神社以外の神社でイベントを開催する</li> </ul>
ふくつ観光協会 ボランティアガイドの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントをPRする</li> <li>・ 食事や古墳馬車とセットで提供する等、馬車をうまく活用する</li> <li>・ 津屋崎のいけす場を再現する</li> <li>・ あんずの里のレストランのメニューを考える</li> <li>・ レシピを作成し、あんずの里以外の場所でも発信する</li> <li>・ アンテナショップを市外に設ける</li> <li>・ 天神からあんずの里や津屋崎まで行ける直行便を設ける</li> <li>・ ボランティアを活用していく</li> <li>・ 市が一丸となって観光地の整備に取り組むこと</li> <li>・ カメリアステージに行ってもらえるようにPRする</li> <li>・ 新原奴山古墳群の公園化やお土産屋を作る</li> </ul>
藍の家保存会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シャッター街の活用や手立てを考える</li> <li>・ 市内で、地域の良さを互いに分かり合えると良い</li> <li>・ 外国人に向けて、体験型の企画を行う</li> <li>・ 訪れたいと思うきっかけづくり</li> <li>・ 自然を保護していくこと</li> </ul>
J R福岡駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客を呼べる、メインのものがあると良い</li> </ul>
西鉄バス宗像(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルートやモデルコース、所要時間が掲載されている冊子があると良い</li> <li>・ チケットやクーポンを利用して食事ができると良い</li> <li>・ 効率よく周遊できるために、週末だけでも周遊バスを設ける</li> <li>・ 大型バスが停まれる場所を増やすまた、あんずの里の駐車場が広がったため、旅行会社にPRする</li> <li>・ 外国人観光客に向けた簡単な案内等を設ける</li> </ul>

#### (4) 行政ヒアリング調査

##### ①調査目的

行政内の観光事業に関連する主要な各課の現状と取組、ニーズ等を把握するために、書面でのヒアリング調査

##### ②調査概要

調査対象	【行政ヒアリング調査】 ① 地域振興課 ・観光推進係 ・商工ブランド推進係 ・農林水産振興係 ② まちづくり推進室 都市管理課 ③ うみがめ課 ④ 文化財課
調査方法	事前に調査票を配布して、調査票の回収を行う。
実施時期	平成30年7月24日(火)
調査内容	団体概要、観光客の動向、取組とその課題、強み・弱み、観光振興の課題

##### ③調査結果

##### ■ 福津市の観光における強みと弱み

団体等名称	強み	弱み
地域振興課 観光振興係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白砂青松の長い海岸線や国定公園にも指定されている豊かな自然</li> <li>・宮地嶽神社や、平成29年7月に世界文化遺産として登録された新原・奴山古墳群等の歴史・文化が豊富</li> <li>・北九州市と福岡市のほぼ中間に位置し、国道3号やJR鹿児島本線等アクセスしやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次交通（バス、レンタカー、レンタサイクル等）が不十分</li> <li>・観光のシンボリック存在が不明確</li> <li>・他との優位性が確保できていない特産品</li> <li>・宿泊施設が少ない</li> </ul>
地域振興課 農林水産振興係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮な水産物と農産物</li> <li>・田園風景や海浜風景</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関の充実度</li> <li>・外国語標記の看板や案内板</li> </ul>
まちづくり 推進室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や街並み等多様な観光資源が点在している所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通手段</li> <li>・商業の賑わい</li> <li>・宿泊施設</li> </ul>
うみがめ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣市町村にはない干潟や、長い海岸線及びそれに沿って続く松林等、豊かな自然環境</li> <li>・絶滅危惧種等の希少種である動植物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力となっている絶滅危惧種のアカウミガメやカブトガニ、カスミサンショウウオといった、生物を気軽に見たり、触れたりすることができないため、観光資源とする方法が難しい</li> </ul>
文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然及び文化、及びそこから育まれたおいしい農水産物や、親しみやすい人々</li> <li>・サーフィン等のマリンスポーツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を落として帰ってもらう仕組みづくり</li> <li>・現在展開されているイベントが小規模すぎて市のイメージも薄いものとなっている</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮地嶽神社から津屋崎千軒、古墳群への導線</li> <li>相応しい整備がなされ観光の魅力を備えた場合、世界遺産を冠する古墳群の集客力は強い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>真に魅力ある名物（お土産品）と食事店（海鮮品や独自料理）松ヶ枝餅をもっと普及させるべき</li> <li>観光（文化）資源の連携と回遊性</li> <li>宿泊施設の不足</li> </ul>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 観光客や来訪客を誘致していく上での課題

団体等名称	課 題
地域振興課 観光振興係	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興を強力に推進する体制</li> <li>広域連携による観光振興</li> <li>既存観光資源の磨き上げとさらなる資源の発掘</li> <li>不十分な2次交通（バス、レンタカー、レンタサイクル等）</li> <li>市内消費額のさらなる増</li> <li>観光滞在時間のさらなる伸長</li> <li>インバウンド対策</li> </ul>
地域振興課 農林水産振興係	<ul style="list-style-type: none"> <li>お土産品の開発、旅行会社とのタイアップ</li> </ul>
まちづくり 推進室	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設の誘致に資するコンテンツ（景色、料理、体験等）</li> </ul>
うみがめ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊施設や交通手段</li> </ul>
文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次交通が不十分</li> <li>自然の豊かさを体験できるスペースへの誘導手段が足りない</li> <li>「宿泊」というキーワードをどう整理するか</li> <li>ハード対策よりソフト対策の充実を</li> <li>行政と民間との役割、責任分担を明確にする</li> <li>駐車場が大幅に不足している（観光バス（大型観光）に対応できない）</li> <li>大型観光に対応できる施設（道の駅等）の設置</li> <li>自動車誘導サイン</li> </ul>

■ 観光客や来訪客を誘致していく上での方策案

団体等名称	方 策 案
地域振興課 観光振興係	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本版観光DMOの立ち上げ（単独または広域）</li> <li>既存観光資源の組み合わせ等による魅力度の発掘・向上</li> <li>2次交通（バス、レンタカー、レンタサイクル等）の充実</li> <li>来訪者を呼び込む情報発信力の向上</li> <li>インバウンド受入のための体制・環境整備</li> <li>市内宿泊環境の開発・改善</li> </ul>
地域振興課 商工・ブランド 推進係	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内向け・インバウンド向けを問わず、体験プログラム等は従来のように観光地を巡るものだけではなく、必要であると思われる</li> </ul>
地域振興課 農林水産振興係	<ul style="list-style-type: none"> <li>着地型観光</li> </ul>
まちづくり 推進室	<ul style="list-style-type: none"> <li>海と宮地嶽神社を中心とした周遊ルート開発</li> <li>食をメインとしたコンテンツ開発</li> <li>ストーリー性のあるお土産品開発</li> </ul>
うみがめ課	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い町並みの残る津屋崎千軒地区や、多くの野鳥や満潮・干潮で異なる美しい姿を見せてくれる津屋崎干潟、のどかな田園風景の中にある古墳群等すばらしい景観地区を気軽に散策できる手段やプラン</li> <li>また、藍の家や王丸屋といった、そこで暮らしている人々との触れ合いの機会を体験できるプラン等</li> </ul>

文化財課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体験観光</li> <li>• 福間海岸～津屋崎海岸で行われているマリンスポーツについて、大型イベントを誘致し、それに伴う観光集客を目指す</li> <li>• 従来型の名所観光</li> <li>• まずは、あんずの里への誘導を行い、大型観光への対応を目指す</li> <li>• 名物（お土産品）と飲食店（海鮮品や独自料理）を提供することにより、市内生産者や労働者等への経済的好循環の確立を目指す</li> <li>• 農業、漁業、工芸、手工業等地域に根ざした産業に注目した地域観光</li> </ul>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 4. 計画策定に係る経過

### (1) 計画策定委員名簿

任期：平成30年11月22日～平成32年（令和2年）3月31日

（順不同、敬称略）

氏名	種別	役職	備考
千 相哲	学識経験者	委員長	九州産業大学 地域共創学部
中村 留美	関係団体	副委員長	一般社団法人 ふくつ観光協会
飯田 浩之	学識経験者	委員	公益財団法人 福岡観光コンベンションビューロー
有吉 敏高	関係団体	委員	観光ボランティアガイドの会
井ノ口 幸子	関係団体	委員	あんずの里市利用組合
古閑 由美	関係団体	委員	藍の家保存会
小竹 晃之	関係団体	委員	福津市商工会

## (2) 審議経過

回	開催日程	協議内容
平成30年度 第1回	平成30年 11月22日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■委嘱・諮問・概要説明等</li> <li>・辞令交付</li> <li>・委員長・副委員長の選出</li> <li>・諮問</li> <li>・概要説明(含:第1次計画成果等)</li> <li>・基礎調査経過報告</li> </ul>
第2回	平成31年 1月24日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査結果・計画骨子</li> <li>・基礎調査結果報告</li> <li>・第2次計画骨子案の検討</li> </ul>
第3回	3月28日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中間報告案</li> <li>・計画策定中間報告案の検討</li> <li>・基本施策の検討</li> </ul>
平成31年度 (令和元年度) 第4回	令和元年 6月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計画素案検討</li> <li>・基本施策の検討</li> <li>・取組事項の検討</li> </ul>
第5回	8月7日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計画素案検討・修正</li> <li>・基本施策の検討</li> <li>・取組事項の検討</li> </ul>
第6回	10月2日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■計画素案完成</li> <li>・計画素案(パブリックコメント前) 点検・修正</li> </ul>
第7回	令和2年 2月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■答申</li> <li>・パブリックコメント結果報告</li> <li>・計画案の確認</li> <li>・答申</li> </ul>

## (3) イベント啓発

名称	開催日程	内容
津屋崎千軒 町並み フォーラム	令和元年 10月6日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千相哲委員長による講演「観光基本計画について」において、観光基本計画の概要等を参加者に周知</li> <li>・クロストークに千相哲委員長、中村留美副委員長出演。これからの観光のあり方等について論議</li> </ul>

## 5. 用語解説

※五十音順

No.	用語	意味	掲載頁
1	インバウンド	外国人が日本を訪れる旅行。または、訪日旅行者。	40,45
2	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉。	8,14
3	キャッシュレス	銀行口座への振り込みやクレジットカードによる支払い等のように、直接現金の授受をしないで、支払いや受け取りを済ませること。	17,18,19
4	旅ナカ	旅行中のこと。行動としては、観光地を巡る、イベントやアクティビティを体験する。買い物をする、宿泊施設に泊まる、現地の人との交流を楽しむ等がある。	16
5	旅マエ	旅行前のこと。行動としては、観光情報を集める、訪問地を選ぶ、宿泊先を探す、訪問地の名物を調べる等がある。	16
6	DMO	Destination Management/Marketing Organization の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗等当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。観光庁が規定した日本版 DMO は、『地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人』。	23,45
7	着地型観光	観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態。主に都会にある出発地の旅行会社が企画して参加者を目的地へ連れて行く従来の「発地型観光」と比べて、地域の振興につながると期待されている。	14,45
8	農泊（のうはく）	農山漁村において日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しみ、農家民宿、古民家を活用した宿泊施設等、多様な宿泊手段により旅行社にその土地の魅力を味わってもらう農山漁村滞在型旅行のこと。	17,18
9	パブリシティ	企業や官公庁、団体などが、製品やサービス、事業などに関する情報を、プレスリリース等を通じてマスメディアに提供し、報道されるように働きかける広報活動。	12,23
10	PDCA サイクル	継続的改善手法。計画（plan）→実行（do）→評価（check）→改善（act）という 4 段階を繰り返すことで、継続的に業務を改善する。	25
11	プロモーション	消費者に製品やサービスを認識させ、購買へと誘導するための活動。	5,10,11,20
12	ホスピタリティ	歓待。ここでは、観光客に対し、相手に喜んでもらうために自ら進んで行う気持ちと行動。	17
13	民泊（みんぱく）	ホテルや旅館等の宿泊施設の代わりに、一般住宅や空き家等に有料で旅行者を宿泊させること。	17,18,43
14	ムスリム	イスラム教徒。	19
15	リピーター	繰り返す人。旅行で同じ地を再び訪れる人。	6,22
16	Wi-Fi（ワイ・ファイ）	パソコンやスマホ等のネットワーク対応機器が、無線の電波で接続できるようになる方式。	19,40





## 第2次福津市観光基本計画

令和2年3月

**福津市**

〒811-3293 福岡県福津市中央一丁目1番1号

TEL0940-42-1111 FAX0940-43-3168

E-Mail [kanko@city.fukutsu.lg.jp](mailto:kanko@city.fukutsu.lg.jp)

Website <http://city.fukutsu.lg.jp>